２０１０年度

大学院講義内容

教育人間科学研究科

教育学専攻

心理学専攻

（博士前期課程）

（博士後期課程）

青山学院大学

目　　次

教育学専攻　（博士前期課程）……1

心理学専攻　（博士前期課程）心理学コース ……43

心理学専攻　（博士前期課程）臨床心理学コース ……69

教育学専攻　（博士後期課程）……103

心理学専攻　（博士後期課程）……115

【心理学専攻（博士前期課程）心理学コース　講義内容】

心理学研究法演習Ⅰ（前期）（２単位）・心理学研究法演習Ⅱ（後期）（２単位）

北村　文昭・入不二　基義・遠藤　健治・平山　栄治・丸山　千秋・山根　律子・小俣　和義・坂上　裕子・繁桝　江里・薬師神　玲子

【講義概要】

受講者は各自の研究について取り上げ、内容を発表する。その後、全員でその研究についての問題点を指摘し、内容の改善法を考える。発表はパワーポイントを用いて、学会形式で行う。各回とも、発表がすべて終了した後に、全員でその日の発表に関して、全体討論を行う。

【講義のねらい】

学会の発表形式で行うことにより、実際に学会発表を行う際の能力向上を図る。また、教員・他の院生からの質問や疑問に答えることにより、自身の研究の問題点について考える力を磨く。

全院生の発表を聞くことにより、知識をはば広く積むことが出来るようにする。

他の院生の発表を聞くことにより、自身の研究進捗状況を見直し、互いに切磋琢磨することにより研究意欲の促進をはかる。

【到達目標】

実際に学会発表が出来るようにすること、さらにその能力をアップすること。

自分と異なる研究テーマの発表に対して、要領よく的をついた質問が出来るようにする。

全体討論を通して、質疑応答の能力を向上させる。

【授業計画】

初回は、専攻主任と院生全員が集まり、発表順や発表方法などについて、説明する。

２回目以降は、順に研究発表を行う。

【成績評価方法・基準】

研究発表をすることと質疑応答などを含めた平常点、出席率により評価する。

なるべく全回出席することが望ましい。また、積極的に質疑応答に参加することが望ましい。

【テキスト・参考書】

授業中に指示する。

心理測定統計論Ⅰ（前期）（２単位）

遠　藤　健　治

【講義題目】

線型モデルと回帰

【講義概要】

心理学では、説明・予測したい変数（現象・事象）を y で表し、それを説明するために研究者が統制した変数（要因）を x で表したとき、両者の関係を

$$y = wx + E$$

と表すことがある。w は重み付け、E は誤差である。もし、影響要因が複数なら

$$y = w_0 + w_1x_1 + w_2x_2 + \cdots + w_px_p + E$$

と書くことも可能である。つまり、y という現象は、いくつかの要因がそれぞれ幾分かの影響をもたらしながら、その総和として説明できると考えるわけである。このような考え方を一般線型モデルという。影響要因を特定し、かつその影響の程度を推定することが心理学の仕事の一つと言うこともできよう。この授業では、論文執筆上適用頻度の高い手法として、分散分析と重回帰分析を取り上げる。

【講義のねらい】

パーソナルコンピュータ上で動く表計算ソフト（Microsoft Excel）および汎用ソフト（SAS、SPSS）を用いて、受講者全員が実際に数値処理をしながら授業を進め、単に知識として諸技法を学ぶのではなく、実践的スキルの修得もめざす。また、複雑な人間の行動を統計分析することにより、単純で説明力・予測力のある「美しい」モデルを見いだすことの愉悦を体感してほしい。

【到達目標】

主たる目標：修士論文作成の際に必要となるデータ解析の知識とスキルを身につけること。

副次的目標：数式を「美しい」と思えるようになること、少なくとも数式に対するアレルギー反応が緩和されること。

【授業計画】
1．オリエンテーション
2．データの編集（1）
3．データの編集（2）
4．尺度構成
5．分散分析（1）
6．分散分析（2）
7．分散分析（3）
8．分散分析（4）
9．分散分析（5）
10．合成変量
11．重回帰分析（1）
12．重回帰分析（2）
13．重回帰分析（3）
【成績評価方法・基準】
出席状況（30%）と、学期末に提出してもらう課題レポート（70%）を総合して評価をつける。
【テキスト・参考書】
遠藤健治　2003『Excel、SAS、SPSS による統計入門』改訂版　培風館

心理測定統計論Ⅱ（後期）（2単位）　遠　藤　健　治

【講義題目】
多変量解析の基本
【講義概要】
Ⅰでは、線型モデルの基本形として分散分析と重回帰分析を扱ったが、Ⅱではその他の回帰モデルの他、外的基準を持たない多変量解析を取り上げる。とりわけ、臨床では質的データを扱うことが多いので、その解析に有用な数量化理論を紹介する。
【講義のねらい】
Ⅰと同様、パーソナルコンピュータ上で動く表計算ソフト（Microsoft Excel）および汎用ソフト（SAS、SPSS）を用いて、受講者全員が実際に数値処理をしながら授業を進め、単に知識として諸技法を学ぶのではなく、実践的スキルの修得もめざす。これまで比率を求める程度で終わらせていた質的データについて、数量化理論を適用することにより、さらに検討の可能性が広がることも指摘したい。
【到達目標】
主たる目標：修士論文作成の際に必要となるデータ解析の知識とスキルを身につけること。
副次的目標：統計解析を「面白い」と思えるようになること。
【授業計画】
1．判別分析
2．ロジスティック回帰分析
3．正準相関分析
4．類似度の数値化
5．クラスター分析
6．因子分析（1）
7．因子分析（2）
8．因子分析（3）
9．多次元尺度法
10．数量化理論Ⅰ
11．数量化理論Ⅱ
12．数量化理論Ⅲ
13．数量化理論Ⅳ
【成績評価方法・基準】
出席状況（30%）と、学期末に提出してもらう課題レポート（70%）を総合して評価をつける。

【テキスト・参考書】
遠藤健治　2003『Excel、SAS、SPSS による統計入門』改訂版　培風館

実験心理学演習Ⅰ（前期）（２単位）　北　村　文　昭

【講義概要】
実験心理学は、経験と科学が合体した経験科学と称される現代科学のもっとも典型的な方法論に基づいています。実際、帰納的に導き出されたこの世界に妥当する経験が私たちの知の体系全体に大きな貢献をなしています。心理学も実験的な方法論に従って、現代心理学として地歩を築いて来た経緯があります。
しかし、実験心理学の評価は、必ずしも肯定的なものではありません。心理検査でよく問題になる信頼性、妥当性が実験心理学全体についても問われるべきでしょう。「実験心理学演習」では、テキストを講読しながら心理学の実験に関するより信頼性と妥当性の高いあり方を探求します。広い視野を前提にした実験によって明らかになる領域の地平を目指します。
【講義のねらい】
まず学部レベルでの心理学の実験領域に関する基礎を確認します。そこに基づいてより柔軟で生産的な方法論と内容、生態学的妥当性の高い研究を探求します。
【到達目標】
実験的方法論の理解と実践する力を涵養します。
【授業計画】
テキストを読み、基礎的な理解を確認した後、必要に応じてさらにテキストを読み進んだり、実際に実験計画を立てます。
【成績評価方法・基準】
平常の実験研究に対する貢献を評価します。
【テキスト・参考書】
Elmes, D.G. et al.: Research Methods in Psychology（*with Info Trac*）, *6th Edition. Brooks/Cole*

実験心理学演習Ⅱ（後期）（２単位）　北　村　文　昭

【講義概要】
実験心理学は、経験と科学が合体した経験科学と称される現代科学のもっとも典型的な方法論に基づいています。実際、帰納的に導き出されたこの世界に妥当する経験が私たちの知の体系全体に大きな貢献をなしています。心理学も実験的な方法論に従って、現代心理学として地歩を築いて来た経緯があります。
しかし、実験心理学の評価は、必ずしも肯定的なものではありません。心理検査でよく問題になる信頼性、妥当性が実験心理学全体についても問われるべきでしょう。「実験心理学演習」では、テキストを講読しながら心理学の実験に関するより信頼性と妥当性の高いあり方を探求します。広い視野を前提にした実験によって明らかになる領域の地平を目指します。
【講義のねらい】
実験心理学演習Ⅰに引き続き、心理学の実験領域に関する基礎を確認した後、生態学的妥当性の高い研究について考察し、実験へと導入して行きます。
【到達目標】
実験的方法論の理解と、自立して研究を推進する力を涵養します。
【授業計画】
実験心理学演習Ⅰの展開として実験計画を推敲し、実際に資料収集をし、可能であればその成果を論文にまとめます。
【成績評価方法・基準】
平常の実験研究に対する貢献を評価します。
【テキスト・参考書】
Elmes, D.G. et al.: Research Methods in Psychology（*with Info Trac*）, *6th Edition. Brooks/Cole*

発達心理学研究Ⅰ（前期）（２単位）・発達心理学研究Ⅱ（後期）（２単位）　山　根　律　子

【講義概要】
発達心理学研究Ⅰでは、基本的な発達検査・知能検査など発達臨床に必要な心理検査を実施し、その結果を解釈できるよう実習する。発達心理学研究Ⅱでは、発達に困難さがある子どもと、その子どもにかかわる人を支えるための心理職の役割について、ロールプレイングを交えて実践的に学ぶ。
【講義のねらい】
発達心理学研究Ⅰでは、臨床現場でよく使われる発達関連の検査の理解と習熟をめざす。発達心理学研究Ⅱでは、発達臨

床の場に必要な知識とスキルの習得をはかる。

【到達目標】

発達判定、発達相談の現場で基本となる知識と技能を身につける。

【授業計画】

〔Ⅰ〕

1．対象理解のためのアセスメントの基礎
2．発達検査等の実施と分析　新版 K 式発達検査
3．　同
4．　WISC-Ⅲ知能検査
5．　同
6．　ITPA
7．　同
8．　K-ABC
9．　同
10．　DN-CAS 認知評価システム
11．　同
12．その他（絵画語彙発達検査、津守式乳幼児発達質問紙など）

〔Ⅱ〕

1．ガイダンス
2．子どもに障害のある仲間について説明する　1
3．　同　2
4．健常児の保護者に障害のある子どもについて説明する
5．学校の先生に障害のある子どもについて説明する
6．保護者に発達検査の結果について説明する　1
7．　同　2
8．社会的資源の利用について説明する　1
9．　同　2
10．発達検査等から、療育計画を立てる　1
11．　同　2
12．まとめ

【成績評価方法・基準】

発達心理学研究Ⅰでは検査実習時および期末時のレポートにより評価、発達心理学研究Ⅱでは授業時の参加および毎回授業後に提出するミニレポートで評価する。

【テキスト・参考書】

とくに定めない

認知心理学演習Ⅰ（前期）（2 単位）　石口　彰

【講義題目】

感覚・知覚心理学の基礎

【講義概要】

感覚・知覚の基礎過程に関する最新の英文テキストを輪読する。さらに、毎回テキストに関する英文による小テストを行い、専門領域の英文読解と内容の理解に努める。また、summary を利用して、専門領域での英文作成方法を身につける。

【講義のねらい】

最新の英文テキストを輪読することにより、認知心理学の知識の刷新を図り、さらに、専門英語を読みこなせるようにする。

【到達目標】

英語で書かれた認知心理学テキストを読みこなせるだけの英語力を獲得し、専門領域に関して偏りのない知識を身につけ、演習Ⅱでの専門論文輪読につなげる。

【授業計画】

初回は、テキストと参考書の紹介。授業の進め方の説明。

2回目－12回目は、英語テキストの各章を輪読。13回目以降は、summary を利用した英作文の練習。

【成績評価方法・基準】

平常点と出席点。

【テキスト・参考書】

授業中に指示する。

認知心理学演習Ⅱ（後期）（2単位）　石　口　　彰

【講義題目】

感覚・知覚心理学の発展

【講義概要】

前半は感覚・知覚の基礎過程に関する最新の英語論文を輪読と英語論文作成練習を行う。後半は、学生が各自、感覚・知覚に関する論文を探し、解説の上、プレゼンテーションを行う。論文は、日本語および英語の両方を対象とする。

【講義のねらい】

最新の英語論文を輪読することにより、認知心理学の動向を知り、さらに、専門英語を読みこなせるようにする。後半では、プレゼンテーション技法を獲得させる。

【到達目標】

英語で書かれた認知心理学論文を読みこなせるだけの英語力を獲得し、専門領域に関して最新の知識を身につける。専門領域に関するプレゼンテーション能力を獲得する。

【授業計画】

初回は、文献の紹介とプレゼンテーション技法の解説。

2回目以降前半は、英語論文の輪読、後半は専門論文のプレゼンテーションと討論。

【成績評価方法・基準】

平常点と出席点。

【テキスト・参考書】

授業中に指示する。

人間情報科学演習Ⅰ（前期）（2単位）　薬師神　玲　子

【講義題目】

認知心理学入門

【講義概要】

認知心理学の概説書と研究論文の輪読を通して、各領域での基礎的な知見および最新の研究動向を概観する。

【講義のねらい】

認知心理学の知見を通して、人間の情報処理システムについての理解を深め、研究視野を広げることをねらいとする。

【到達目標】

認知心理学の各領域における基本的な知見および研究方法を理解することを目標とする。

【授業計画】

1.　イントロダクション
2-3.　知覚と注意
4-6.　記憶
7-9.　情動と意思決定
10-11.　問題解決と推論
12-13.　運動計画および制御
14-15.　言語

【成績評価方法・基準】

授業中の発表およびレポートに基づいて評価を行う。

【テキスト・参考書】

初回授業に提示する。

人間情報科学演習Ⅱ（後期）（2単位）　薬師神　玲　子

【講義題目】

信号検出理論入門

【講義概要】

認知心理学、特に知覚や記憶研究の領域の基本的な測定法である信号検出理論について概説する。

【講義のねらい】

信号検出理論に基づいた測定法の学習を通して、情報処理システムとしての人間の理解を深める。

【到達目標】

信号検出理論に基づいた測定法を研究に応用できる知識、技術の獲得を目標とする。

【授業計画】

1.　　イントロダクション
2-5.　古典的信号検出理論：様々な実験パラダイムによる測定
6-10.　多次元信号検出理論とカテゴリー化
11-13.　信号検出理論の展開
14-15.　プロジェクト発表

なお、5回目、10回目、13回目では、学生による、信号検出理論を用いた最新の研究論文の紹介を行う。

また、授業後半では、各自、信号検出理論に基づく実験等の小プロジェクトを実施し、研究発表を行う。

【成績評価方法・基準】

授業中の論文紹介およびプロジェクト報告（発表、レポート）に基づいて評価を行う。

【テキスト・参考書】

授業初回に提示する。

【その他】

事前の数学的知識は必要としない。学生の理解に合わせて、基本的事項から順次進める予定である。

情動発達論演習Ⅰ（前期）（2単位）　坂　上　裕　子

【講義題目】

進化論的観点から捉えた発達Ⅰ

【講義概要】

発達心理学の中で扱われてきた伝統的なトピック（遺伝と環境、認知と学習、社会的認知、家族関係、仲間関係、遊びなど）について、進化論的観点からの論考に触れることを通して、発達という現象についての理解を深める。

【講義のねらい】

進化発達心理学の基本的な考え方を理解することで、人間の発達について多角的な視点から捉えうるようになることをねらいとする。

【到達目標】

子どもの発達に関する基本的な知識を確認、習得することに加え、様々な知見について批判的かつ建設的に討論する力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

初回の授業時にガイダンスを行う。

2回め以降の授業では、担当者による講義と受講者による文献の発表を織り交ぜながら、全体で討論を行う。

【成績評価方法・基準】

出席状況、授業での発表（過不足のない分かりやすいレジュメが作成されているか／聞き手が理解しやすい形でプレゼンテーションが行われているかを評価の基準とする）、討論への参加（討論への参加度／討論の展開への貢献度を評価の基準とする）によって、総合的に評価を行う予定である。

【テキスト・参考書】

Bjorklund, D. & Pellegrini, A.D.（2002）, *The origins of human nature. Evolutionary developmental psychology*. APA.（ビョークランド・ペリグリーニ（著）、無藤隆（監訳）（2008）、進化発達心理学．ヒトの本性の起源．新曜社.）

【その他】

授業の進め方については、受講者の既存の学習内容や理解度などに応じて、多少の変更を行うことがある。

情動発達論演習Ⅱ（後期）（2単位）　坂　上　裕　子

【講義題目】

進化論的観点から捉えた発達Ⅱ

【講義概要】
発達心理学の中で扱われてきた伝統的なトピックの中でも、子育て・子育ちという現象を取り上げ、生物としての「ヒト」の子育てや子育ちについて、進化論的観点から論考する。
【講義のねらい】
演習Ⅰに引き続き、進化発達心理学の基本的な考え方を理解することで、人間の発達について多角的な視点から捉えうるようになることをねらいとする。
【到達目標】
演習Ⅰに引き続き、子どもの発達に関する基本的な知識を確認、習得することに加え、様々な知見について批判的かつ建設的に討論する力を身につけることを目標とする。
【授業計画】
初回の授業時にガイダンスを行う。
２回め以降の授業では、担当者による講義と受講者による文献の発表を織り交ぜながら、全体で討論を行う。
【成績評価方法・基準】
出席状況、授業での発表（過不足のない分かりやすいレジュメが作成されているか／聞き手が理解しやすい形でプレゼンテーションが行われているかを評価の基準とする）、討論への参加（討論への参加度／討論の展開への貢献度を評価の基準とする）によって、総合的に評価を行う予定である。
【テキスト・参考書】
ハーディ（著）、塩原通緒（訳）(2005)、マザー・ネイチャー（上）・(下)、早川書房。
【その他】
授業の進め方については、受講者の既存の学習内容や理解度などに応じて、多少の変更を行うことがある。

教育心理学演習Ⅰ（前期）（２単位）　松　村　茂　治

【講義概要】
この講義では、教育心理学を教育実践との関連の中で学んでいこうと思います。教育実践への心理学領域からのアプローチとしては、その筆頭に学校心理学をあげることができます。わが国でも、学校心理士資格の認定が進められてきている折、そのモデルとなった米国のスクール・サイコロジーの特徴や機能について解説を加えるところからスタートします。その後、学級集団の特徴とその理解の仕方、学級における教師と児童生徒との関係作りに関する実践的な研究、応用行動分析の立場からの学級経営（Classroom Management）等について学びます。
【講義のねらい】
通常の学級における教育実践に関して、心理学の立場からどのような支援が可能かということについて考えていただこうと思います。
【到達目標】
学校心理学（school psychology）の特徴や機能について理解すること及び学級集団に関するアセスメント方法について理解することを目標とします。
【授業計画】
1　　オリエンテーション：教育心理学と学校心理学
2～3　学校心理学（school psychology）について
4～5　学級集団の特徴
6～8　学級集団を理解するための方法
9～12　学級集団に関する実践的研究
13～14　応用行動分析の立場からの学級経営
15　　まとめとテスト
【成績評価方法・基準】
授業への出席状況、課題（中間で課すレポート等）への取り組み、最終テストの成績等を総合的に判断して評価します。
【テキスト・参考書】
テキストは使用しません。毎回、資料を配付し、それを用いて講義を進めます。参考書等は適時紹介します。

教育心理学演習Ⅱ（後期）（２単位）　松　村　茂　治

【講義概要】
この授業では、教育心理学領域の実証的な論文（実験的論文、実践報告等）の講読を通し、我が国の教育現場に生じてい

る種々の問題について理解するとともに、各自の論文執筆に資するような勉強を進めていただこうと思います。心理学論文の書き方について基礎的な学習をした後、まずは教育心理学研究、LD 研究、カウンセリング研究等の和文雑誌の中から、次いで、School Psychology Review、Best Practices in School Psychology、Learning Disabilities Research and Practices 等の英語論文の中から論文を選び、レポーターを決め発表していただきます。最後には、各自の研究テーマに即した論文を選びレポートをしていただきます。

【講義のねらい】

教育心理学領域の論文の講読を通して、この領域の研究の在り方（テーマや研究方法）について理解を進めるとともに、自身の論文執筆に資するような学習を進めていただこうと思います。

【到達目標】

教育心理学領域の論文の読み方、書き方について習熟すること、自分自身の論文執筆のためのテーマの設定のための情報収集をすることそして当該テーマにフィットした研究方法について基本的なスキルを習得すること等が目標です。

【授業計画】

1　　オリエンテーション
2 ～ 3　心理学論文の書き方について
4 ～ 7　和文の論文講読：学級集団、学級崩壊、学習障害、不登校等に関する論文
8 ～11　英文の論文講読：School Psychology に関する論文
12～15　各自のテーマに即した論文講読
＊論文講読という形式は変わりませんが、受講生の人数によって、計画の変更はあり得ます。

【成績評価方法・基準】

授業への出席状況、参加の具合、レポートへの取り組み、最終テスト等を総合的に判断して評価します。

【テキスト・参考書】

当初、論文はこちらで用意するが、各自のテーマに即した論文を選択することも可能です。

社会心理学研究Ⅰ（前期）（2 単位）　繁　桝　江　里

【講義題目】

身近な関係における対人コミュニケーションと心理

【講義概要】

家族や友人など身近な人間関係において生じる対人コミュニケーションとそれに関わる心理について、最新の英語論文を講読し、その理論的背景や研究手法を学ぶとともに、研究の問題点について批判的に考察します。

【講義のねらい】

最新の研究の理解に加え、英語論文を要約するスキル、先行研究を批判するスキル、発表するスキルを習得することを目指します。

【到達目標】

当該分野の最新の研究動向、研究法、問題点の理解

【授業計画】

各回の発表担当者が英語論文を要約したレジュメを元に発表し、議論担当者が議論すべき点を提示します。それを踏まえ、受講者全員で議論を行います。

【成績評価方法・基準】

発表内容および通常の議論への参加程度で評価します。

【テキスト・参考書】

初回授業時に紹介する予定です。

社会心理学研究Ⅱ（後期）（2 単位）　繁　桝　江　里

【講義題目】

産業組織心理学における対人コミュニケーション

【講義概要】

消費行動や職場など、産業組織心理学が扱う場面で生じる対人コミュニケーションとそれに関わる心理について、最新の英語論文を講読し、その理論的背景や研究手法を学ぶとともに、研究の問題点について批判的に考察します。

【講義のねらい】

最新の研究の理解に加え、英語論文を要約するスキル、先行研究を批判するスキル、発表するスキルを習得することを目

指します。

【到達目標】

当該分野の最新の研究動向、研究法、問題点の理解

【授業計画】

各回の発表担当者が英語論文を要約したレジュメを元に発表し、議論担当者が議論すべき点を提示します。それを踏まえ、受講者全員で議論を行います。

【成績評価方法・基準】

発表内容および通常の議論への参加程度で評価します。

【テキスト・参考書】

初回授業時に紹介する予定です。

応用社会心理学演習Ⅰ（前期）（2単位）　　萩　原　　滋

【講義題目】

マス・コミュニケーションの社会心理学（概論）

【講義概要】

日本におけるテレビ放送の歴史や視聴者の動向、メディア特性などについて概観した後、テレビの暴力描写の影響や現実の社会認識に及ぼすメディア情報の影響力を中心にメディア研究の分野における主要な理論や最近の社会心理学的研究の成果を取り上げる予定。

【講義のねらい】

マスメディアの中で、広く社会に浸透して最も大衆的メディアとなっているテレビの社会的影響力について理論と実証の両面からの理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

日常的に接しているテレビや新聞などのマスメディアに対する関心が以前よりも深まれば幸いである。

【授業計画】

1回　　ガイダンス
2－4回　メディア効果論の紹介
5回　　テレビのメディア特性とテレビ放送小史
6回　　テレビの社会的影響概観
7－9回　テレビ暴力研究―理論と実証
10－12回　メディア情報と社会認識

【成績評価方法・基準】

発表や議論への貢献度などに基づいて評価する。

【テキスト・参考書】

萩原滋編著（2001）『変容するメディアとニュース報道―テレビニュースの社会心理学』丸善
NHK放送文化研究所（2008）『現代社会とメディア・家族・世代』新曜社
田崎篤郎・児島和人編著（2003）マス・コミュニケーション効果研究の展開［改訂新版］

応用社会心理学演習Ⅱ（後期）（2単位）　　萩　原　　滋

【講義題目】

マス・コミュニケーションの社会心理学（メディア情報と外国認識）

【講義概要】

テレビにおける外国関連報道、CMやドラマ、バラエティ番組などにおける外国・外国人イメージの表象と視聴者の外国認識との関連に焦点を合わせて、メディア効果に関する社会心理学的研究を取り上げる。

【講義のねらい】

授業担当者が行っている一連の研究を主たる素材として、そこでの研究成果を通じてメディア情報の社会的影響力についての理解を深める。

【到達目標】

社会心理学とメディア研究の接合領域への接近の仕方を習得する。

【授業計画】

1回　　ガイダンス

2回　　日本のテレビにおける外国制作番組の放送史
3－4回　バラエティ番組『ここがヘンだよ日本人』を素材とした研究
5－6回　国際的スポーツイベント（ワールドカップ、オリンピックなど）を素材とした研究
7－9回　テレビニュースの外国関連報道の分析
10－11回　テレビＣＭの中の外国文化
12回　　総括

【成績評価方法・基準】

発表や議論への貢献度などに基づいて評価する。

【テキスト・参考書】

萩原滋・国広陽子編（2004）『テレビと外国イメージ―メディア・ステレオタイピング研究』勁草書房
萩原滋編著（2007）『テレビニュースの世界像―外国関連報道が構築するリアリティ』勁草書房
岩渕功一（2007）『文化の対話力―ソフト・パワーとブランド・ナショナリズムを超えて』日本経済新聞社
土佐昌樹・青柳寛編（2005）『越境するポピュラー文化と〈想像のアジア〉』めこん

産業心理学研究Ⅰ（前期）（2単位）　　境　　忠　宏

【講義題目】

産業心理学の発展動向

【講義概要】

産業心理学の発展を、ワークモチベーション・リーダーシップ・キャリアデベロップメント・マーケティングの四つのテーマから解説する。

【講義のねらい】

実践的応用を目的とする産業心理学研究の発展を、経営における人間観の変遷を踏まえて理解し、最近の経営における人間観とそれに対応した現代の産業心理学の研究課題を展望する。

【到達目標】

産業心理学研究の発展を実践的応用への課題解決という視点から理解することで、近年の経済・経営状況のもとで産業心理学が取り組むべき研究課題とそれらへの取り組み状況を把握する。

【授業計画】

次の五つのパートで授業を進める。ただし、学習の進行度により計画を変更することもある。

パートⅠ　ガイダンス
1．講義ガイダンス
　授業の進め方を解説するとともに資料を配布する。
2．経営管理の動向
　科学的管理法以降の経営管理の展開とそこでの人間観を解説する。
3．産業心理学の発展
　それぞれの経営管理のもとでの産業心理学研究を展望する。
パートⅡ　ワークモチベーション研究
4．人間欲求の構造
　欲求階層理論を中心にワークモチベーションの内容理論を解説する。
5．動機づけの過程
　期待価値理論を中心にワークモチベーションの過程理論を解説する。
6．ワークモチベーション研究の課題と方向
　ワークモチベーション研究のこれからの方向について検討する。
パートⅢ　リーダーシップ研究
7．グループプロセス
　集団の環境適応過程におけるリーダーの役割を概観する。
8．リーダーシップスタイル
　リーダーシップ研究の発展動向を解説する。
9．リーダーシップ研究の課題と方向
　リーダーシップ研究のこれからの方向について検討する。
パートⅣ　キャリア研究

10．キャリアの概念
　外的キャリアから内的キャリアへのキャリア概念の変遷を展望する。
11．キャリアの形成と発達
　計画的偶発性理論を中心に自律的キャリア形成の過程を解説する。
12．キャリア研究の課題と方向
　キャリア研究のこれからの方向について検討する。
パートⅤ　マーケティング研究
13．購買意思決定
　情報処理モデルによる消費者の意思決定過程を解説する。
14．ブランディング
　態度形成モデルによるブランドイメージ形成過程を解説する。
15．マーケティング研究の課題と方向
　マーケティング研究のこれからの方向について検討する。

【成績評価方法・基準】

パートⅡの６・パートⅢの９・パートⅣの12・パートⅤの15における産業心理学のこれからの研究課題と展開方向の検討における各自の発表内容に基づき成績を評価する。

【テキスト・参考書】

テキストはとくに用いず必要な資料を配布する。
参考書としては「佐々木土師二編　産業心理学への招待　有斐閣　2100円」を推薦する。

産業心理学研究Ⅱ（後期）（２単位）　　境　　忠　宏

【講義題目】

キャリア研究の課題と方向

【講義概要】

前期のテーマの中からキャリア研究を取り上げ、近年とくに重視されている自律的キャリア形成のプロセスとその支援方法について解説する。

【講義のねらい】

経営の人間観や人材開発目標の変遷に対応したキャリア概念そのものの発展動向を理解し、自律的人材育成という昨今の人材開発目標のもとでのキャリア研究の動向と成果を展望する。

【到達目標】

自律的人材育成のための企業の人材開発の課題と方向ならびにその実践事例を学ぶとともに、企業だけでなく行政や教育など社会全体での連携方向を把握し、そのためのキャリア形成支援方法を理解する。

【授業計画】

次の五つのパートで授業を進める。ただし、学習の進行度により計画を変更することもある。
パートⅠ　ガイダンス
１．講義ガイダンス
　授業の進め方を解説するとともに資料を配布する。
２．企業のキャリア開発の動向と事例
　最近の企業のキャリア開発の動向を事例を踏まえて解説する。
３．キャリア研究の発展
　キャリア概念の変遷と最近のキャリア研究を展望する。
パートⅡ　人間・環境適合研究
４．パーソンズの特性因子理論
　職業選択のための職業適性理論を解説する。
５．ホランドの人間・環境適合理論
　職業適応のための職業興味理論を解説する。
６．人間・環境適合研究の課題と方向
　人間・環境適合研究のこれからの方向について検討する。
パートⅢ　生涯発達研究
７．スーパーの生涯発達理論

社会的役割の生涯発達モデルを解説する。
8．シェインの自己概念理論
職業的自己概念のキャリアアンカーモデルを解説する。
9．生涯発達研究の課題と方向
生涯発達研究のこれからの方向について検討する。
パートⅣ　自律的キャリア形成研究
10．クランボルツの計画的偶発性理論
偶発的機会の意図的な発見と活用を重視するキャリア形成を解説する。
11．サビカスのキャリア適応理論
キャリア形成の成熟と統合的適応を重視するキャリア形成を解説する。
12．自律的キャリア形成研究の課題と方向
自律的キャリア形成研究のこれからの方向について検討する。
パートⅤ　国際化時代のキャリア研究
13．キャリアの比較文化的研究
社会的・文化的背景とキャリア形成との関係について解説する。
14．国際的キャリア形成研究
国境を越えたキャリア形成の要件と課題について解説する。
15．国際化時代のキャリア研究の課題と方向
国際化時代のキャリア研究のこれからの方向について検討する。

【成績評価方法・基準】

パートⅡの6・パートⅢの9・パートⅣの12・パートⅤの15におけるキャリア研究のこれからの研究課題と展開方向の検討における各自の発表内容に基づき成績を評価する。

【テキスト・参考書】

テキストはとくに用いず必要な資料を配布する。
参考書としては「宮城まり子監修　キャリアサポート　駿河台出版　1700円」を推薦する。

臨床心理学特講Ⅰ（前期）（2単位）　　田　中　智　子

【講義概要】

臨床心理学は他者援助論であり、実践の学問と言われている。だが、援助を適切に行うためには、研究とそれに裏付けられた技法が必要である。臨床心理学は心理学の応用分野でもあるが、伝統的な心理学とは研究法や人間理解へのアプローチも異なっている。授業では、心理学と比較しながら臨床心理学の特徴を明確にする。臨床心理学は「臨床」というように、精神医学と近接しているが、成長モデル、自然（じねん）モデルをとっていることにおいては教育とも近接している。そして時代の変化に反応し、時代の要請にこたえて、新たな援助論をうちたてていかねばならない現在進行形の、そして現場からの理論構築が必要な学問である。本授業では、このような特徴をもつ臨床心理学を「対話」をとおして伝えたい。

【講義のねらい】【到達目標】

上記をふまえて具体的には、パーソナリティの理解と援助、心理臨床の理論、実際の心理臨床活動、心理臨床と周辺領域について講義と対話を行う

【授業計画】

1．臨床心理学とは
2．臨床心理学と近接領域（精神医学　文化人類学　哲学　など）
3．心のはたらき
4．ライフサイクル論
5．心理アセスメント
6．心理面接論
7．グループワーク
8．臨床心理学的地域援助

【成績評価方法・基準】

出席（30%）　発表（30%）　レポート試験（40%）

【テキスト・参考書】

適宜紹介する

【その他】
臨床心理学特講Ⅱとの履修が望ましい

臨床心理学特講Ⅱ（後期）（2単位）　田　中　智　子

【講義概要】
前期で学んだ理論を、心理臨床場面においていつでも必要に応じて取り出せるように、つまり実践可能な準備状態にまで定着させることを目的とする。つまり知識が腑に落ち、血肉化することをめざしたい。“生きることは自分の物語を作ること”を基礎におきながら、他者の物語の創生をどのように援助するかについて考えていきたい。具体的には臨床心理学の先達が執筆した本の講読、事例研究、映画鑑賞とディスカッションを行う。

【講義のねらい】【到達目標】
マインドフルネスとナラティブをキーワードにおき、自己理解の深化、自己の物語の創生、そして他者の物語の創生をめざす。

【授業計画】
1．マインドフルネスとはなにか―平常心と観察のススメ―
2．語りを助けるナラティブ
3．物語りの書き換えをめざすナラティブ
4．視点や発想の転換をめざすナラティブ
5．事例研究（乳幼児期～老年期まで）
6．文献講読（下記の参考書の講読を行う）
7．映画鑑賞とディスカッション

【成績評価方法・基準】
出席・およびディスカッションへの参加（40%）　レポート試験（60%）

【テキスト・参考書】
「うつし　臨床の詩学」森岡正芳著　みすず書房、「会話・言語・そして可能性」ハーレーン・アンダーソン著　金剛出版、「ナラティブ・セラピー、みんなのQ＆A」ショーナ・ラッセル、マギー・ケアリー編　金剛出版、等を参考にする。

【その他】
臨床心理学特講Ⅰを受講して履修してほしい。

心理面接特講Ⅰ（前期）（2単位）　田　中　智　子

【講義概要】
心理面接の場とは、心理臨床家とクライエントの「我と汝」の関係をもとに、クライエントの自己実現のプロセスを推進し、傷ついた心の再生をめざす場である。臨床心理学の理論、または心理面接論を基礎としながらも、最終的には心理臨床家の勘やセンス、人間観、他者への尊敬をカンテラとして歩む過程である。そして他の援助論とのコラボレーションも必要となろう。ここでは、心理面接の理論、技法はもとより、私たち個人の人間観、世界観を俎上にあげながら、自己理解とともに、心理面接の装置、他者を援助する方法の実際を考えていく。臨床心理学特講よりも、心理面接の内側を知ることを目的とする。

【講義のねらい】【到達目標】
心理面接の理論、技法、姿勢などを解説し、実践を行う

【授業計画】
1．心理面接理論
（ロジャース、フロイト、ユング　を中心に、交流分析、ゲシュタルト療法、認知行動療法、NLP などを解説する）
2．心理面接理論（近接領域　臨床哲学　文化人類学　精神医学などから学ぶ）
3．心理面接理論（日本独自の心理面接論　森田療法　内観療法など）
4．河合隼雄氏　土居健郎氏　佐治守夫氏　神田橋條治氏　の心理面接論を学ぶ
5．時代や社会が心理面接に期待すること、その期待にこたえること、希望の再生をめざすこと
6．コラボレーションを考える　―他の職種との有機的なつながりをめざす―

【成績評価方法・基準】
出席・ディスカッションへの参加（40%）　レポート試験（60%）

【テキスト・参考書】
適宜紹介する。

【その他】
心理面接特講Ⅱと両方履修してほしい

心理面接特講Ⅱ（後期）（2単位）　田　中　智　子

【講義概要】
心理面接特講Ⅰを発展させた内容、応用編である。事例研究をとおして、心理面接の実際にふれていくことを目的とする。心理面接には、他者の人生に関わり、その方の人生のさまざまな局面に立ち会っているという責任が伴う。他者への畏敬の念、謙虚さ、臨場感を忘れず、クライエントが自らの真の悩みに向き合うことで、自らの「自己実現への意志」を見出していけるように、心理面接者が真摯に取り組むことが必要である。その意味で、心理面接の場は、面接者自身のあり方がとわれる場である。面接者として自分がどのようにクライエントを援助していくかについて、詰めていく場になればと期待する。

【講義のねらい】【到達目標】
クライエントの心に沿う技法・姿勢を円熟させる。

【授業計画】
1．乳幼児期を支える心理面接　―子育て支援の現場―
2．児童期、思春期の心理面接　―イニシエーションの必要さ、「西の魔女が死んだ」をとおして―
3．アイデンティティの確立　―キャリア・カウンセリングの実際―
4．中年期の惑い　―新たな生きる意味を求めて―
5．老年期、統合にむけての心理面接　―回想法の実際―
6．うつ病、統合失調症など精神疾患への援助
7．パーソナリティ障害への援助―映画「17歳のカルテ」を参考にしながら―
8．発達障害を考える
9．家族のきずなの回復

【成績評価方法・基準】
出席・ディスカッションへの参加（40%）　レポート試験（60%）

【テキスト・参考書】
適宜紹介する

【その他】
心理面接特講Ⅰの応用編のため、心理面接特講Ⅰを受講しておいてほしい

心理検査演習Ⅰ（前期）（2単位）　北　村　麻紀子

【講義題目】
心理検査演習

【講義概要】
心理検査を用いた心理アセスメントでは、個人の知的能力も含めた人格の特徴、特異性や独自性をとらえることができる。心理検査は一定の条件の下に被検者に一定の課題を課して、それに対する反応内容、課題解決の方法、その過程における行動を観察し、知能や人格など個人的な特徴をみていくものである。大別すると、知能検査、記銘力検査、人格検査の3つがあげられる。本講義では、知能検査、記銘力検査を主として学習する。なお後期の心理検査演習Ⅱでは、人格検査をとりあげる予定である。

【講義のねらい】
心理臨床で行われる心理検査を用いた心理アセスメントの実際に触れることを目的とする。

【到達目標】
心理検査を用いた心理アセスメントにどのようなものがあるか全体像を理解し、実際にいくつかの心理検査の理論的背景・実施方法・解釈の基礎を学習する。

【授業計画】
心理検査の概説に続いて、知能検査、記銘力検査の基礎について演習をとおした学習をすすめる。

【成績評価方法・基準】
出席50%、レポート50%

【テキスト・参考書】
授業のなかで適宜紹介する。また必要に応じてプリントを配付する。

心理検査演習Ⅱ（後期）（２単位）　北　村　麻紀子

【講義題目】

心理検査演習

【講義概要】

心理検査を用いた心理アセスメントでは、個人の知的能力も含めた人格の特徴、特異性や独自性をとらえることができる。心理検査は一定の条件の下に被検者に一定の課題を課して、それに対する反応内容、課題解決の方法、その過程における行動を観察し、知能や人格など個人的な特徴をみていくものである。大別すると、知能検査、記銘力検査、人格検査の３つがあげられる。前期の心理検査演習Ⅰに引きつづいて、本講義では、人格検査を主として学習する。

【講義のねらい】

心理臨床で行われる心理検査を用いた心理アセスメントの実際に触れることを目的とする。

【到達目標】

心理検査を用いた心理アセスメントにどのようなものがあるか全体像を理解し、実際にいくつかの心理検査の理論的背景・実施方法・解釈の基礎を学習する。

【授業計画】

前期に続いて、人格検査（質問紙法・投映法・作業検査法）について演習をとおした学習をすすめる。

【成績評価方法・基準】

出席50%、レポート50%

【テキスト・参考書】

授業のなかで適宜紹介する。また必要に応じてプリントを配付する。

精神医学演習Ⅰ（前期）（２単位）　宮　川　香　織

【講義題目】

精神医学を覗いてみるⅠ

【講義概要】

心理学と精神医学は同じような用語を用い近しい関係にある学問でありながら、用いられようが違い、めざすものも違う。心理学から普段眺めているものを精神医学の方向から眺めてみて両者の相違を今一度確認してみる。

【講義のねらい】

将来、心理士として医療の近くで仕事をするときに精神科医の考え方、仕事内容、薬物療法や入院療法の成り立ちや効果を知り、異業種間での連携作業がスムーズに行えるようにする。

【到達目標】

①精神医学の歴史 ②各精神疾患の詳細 ③精神科臨床の実際 ④精神科医の行う精神療法と心理士の行う心理療法との違いなどについて理解を深める ⑤また、精神病の患者から見た世界がどのようなものか想像してみる

【授業計画】

①心とは？ ②精神科の病気とは？ ③精神科と社会 ④～⑥うつ病(1)～(3) ⑦～⑨統合失調症(1)～(3) ⑩精神疾患であるということの意味（本人・家族・社会）⑪芸術療法と表現病理 ⑫精神科医をどう使うか？精神科医に何ができるか？ ⑬精神医学と心理学

【成績評価方法・基準】

評価方法：レポート

基準：自分で考え、自分の言葉で精神医学の分野の課題に答えを出していく（ただし精神科医としてではなく）

【テキスト・参考書】

精神科治療の覚書（からだの科学選書） 中井久夫　日本評論社

精神科・治療と看護のエッセンス　市橋秀夫　星和書店

精神医学ハンドブック　山下格　日本評論社

精神医学演習Ⅱ（後期）（２単位）　宮　川　香　織

【講義題目】

精神医学を覗いてみるⅡ

【講義概要】

心理学と精神医学の相違を知った後、精神科臨床特有の出来事や介入、心理士―精神科医の連携とより有効な心理療法の有り様、精神病者の世界観、患者家族の心理などについて考える。

【講義のねらい】
より具体的個別的に精神疾患を抱える人に起こっていることを見ていき、臨床に於ける心理的援助、医師との情報伝達などについて検討してみる。
【到達目標】
医療現場で心理学を生かす方法を身につけ、心理学から医療現場へクライエントを移す折りの、「時と場合」についての知識を身につける。
【授業計画】
①精神科の内と外②うつ的なもの③統合失調症ではない幻覚④初期統合失調症とアスペルガー症候群後子度子どもの患者⑥死の臨床⑦家族を扱う⑧精神科の取扱説明書⑨聞きとみたてのコツについて⑩精神科臨床と人格障害⑪失敗診療から学ぶ⑫精神医学を巡る不思議なこと
【成績評価方法・基準】
評価方法：レポート
基準：自分で考え、自分の言葉で精神医学の分野の課題に答えを出していく（ただし精神科医としてではなく）
【テキスト・参考書】
精神科治療の覚書（からだの科学選書）　中井久夫　日本評論社
精神科・治療と看護のエッセンス　市橋秀夫　星和書店
精神医学ハンドブック　山下格　日本評論社

老年心理学演習Ⅰ（前期）（2単位）　岡　村　陽　子

【講義概要】
65歳以上のいわゆる高齢者が全人口の2割近くを占めるようになった現在では、高齢者の心理特徴について学ぶことは必須といえる。高齢者の問題は、認知症などの問題が大きく取り上げられ、病、孤独、死など暗いイメージでとらえられることも多い。しかし、高齢者と呼ばれることに抵抗を感じ、年齢を重ねることでますます輝きを増す人も数多く、生涯発達という観念から老年期の心理をとらえ直す動きも高まってきている。講義では、老年期の心理について概観した後、老年心理学のトピックについて取り上げ、各自の発表とそれについての討論という形式ですすめたい。後半には、老年期の心理評価に使用される各種心理検査を紹介したうえで、実習を行い、レポートを作成する。
【講義のねらい】
老年期の心理について幅広い知見を身につけ、実際に心理として対応していける力をつける
【到達目標】
老年期のパーソナリティ、発達課題、ライフイベント、疾患の特徴、対応方法について理解し、老年期の心理評価に使用される各種心理検査を実施できるようになる
【授業計画】
1　　老年心理学概説
2～7　老年心理の各トピックにそった発表・討論
8～13　老年期の心理評価
【成績評価方法・基準】
出席状況と授業内のレポート、発表などの平常点で行います。
【テキスト・参考書】
・稲谷ふみ枝・宮原英種　2003『高齢者理解の臨床心理学』ナカニシヤ出版
・下仲順子・中里克治・一番ヶ瀬康子　2004『高齢者心理学』建帛社
・大塚俊男・本間昭　監修『高齢者のための知的機能検査の手引』ワールドプランニング
・原寛美　監修　2005『高次脳機能障害ポケットマニュアル』医歯薬出版株式会社

障害者（児）心理学演習Ⅰ（前期）（2単位）　緒　方　登士雄

【講義題目】
発達障害児・者の発達支援に向けた心理学的アプローチ
【講義概要】
知的障害や自閉症、脳性まひなどの障害を抱えた人の理解と支援に関する心理学的知識を深める。また、このような障害をもつ人たちの生活の実際を知るために教育や福祉、労働等の関連領域の具体的資料も用いて幅広く検討したい。
【講義のねらい】

発達障害者の理解と支援のための新たな心理学的知見を得るとともに関連する領域への関心を深める。

【到達目標】

テーマに関連する資料の収集・分析を行ない検討できるようになる。

【授業計画】

授業参加者の準備したレジュメに基づく発表と討論を中心に行なう。

1．　授業のガイダンス
2．　参加者の問題意識の確認と発表テーマの決定
3～　授業参加者による発表と討論
4．　（最終回）授業のまとめ

【成績評価方法・基準】

授業への参加姿勢（出席回数、発言内容など)、レポートの内容による評価

【テキスト・参考書】

特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。

【その他】

授業参加者には、それぞれ自らの疑問・関心（テーマ）をもって授業に臨んでほしいと思います。

心理療法演習Ⅰ（前期）（2単位）　髙　橋　道　子

【講義題目】

心理療法に関する文献研究

【講義概要】

心理療法の基本に関する文献の講読と討論及びフォーカシング実習

【講義のねらい】

様々な心理療法の文献講読を積み重ねることで、自分が行う心理療法を客観的に見直す観点を持ち続ける力をつけることを主眼とします。

また実習として取り上げる「フォーカシング」は来談者中心療法の流れを汲むシカゴ大学のジェンドリン博士が1960年代に開発した技法です。この方法で＜自分の内的体験へのかかわりかた＞を身につけることは、治療者としての資質をより一層高めることも出来ますし、文献考察をただ知識としてだけではなく、より深い理解へと導く体験となると考えられます。

【授業計画】

心理療法の基本的文献を扱います。

【成績評価方法・基準】

各自のレポート内容、及び討議・発表等により総合的に評価します。

【テキスト・参考書】

土居健郎　1989『方法としての面接』医学書院
成田善弘　2007『精神療法の第一歩』（増補）金剛出版
下坂幸三　1998『心理療法の常識』金剛出版　　その他

心理療法演習Ⅱ（後期）（2単位）　髙　橋　道　子

【講義題目】

心理療法に関する文献研究

【講義概要】

病態・治療目標に適した心理療法についての文献講読及び討論

【講義のねらい】

後期はより実践的な心理療法の文献を扱い、心理療法についての考察を深めることを主眼とします。

【到達目標】

文献研究を通して、心理療法の文献・症例研究を知識としてだけでなく、実際の心理療法場面を彷彿とさせることが出来るように読みこなすこと。

【授業計画】

心理療法についてより実践的な文献を扱います。

【成績評価方法・基準】

各自のレポート内容、及び発表・討論等により総合的に評価します。

【テキスト・参考書】
広瀬徹也　2004『精神療法の実践的学習』星和書店
下坂幸三　2007『アノレクシア・ネルヴォーザー論考』みすず書房
松木邦裕　2007『抑うつの精神分析的アプローチ』金剛出版
村瀬嘉代子　1995『子どもと大人の心の架け橋』金剛出版　その他

学校臨床心理学演習Ⅰ（前期）（2単位）　岩田淳子

【講義題目】
学校臨床心理学の実際―スクールカウンセラーの相談援助活動―

【講義概要】
学校臨床心理学は、学校に在籍するすべての児童・生徒一人一人の発達援助を目的とし、教育上の諸問題について、本人またはその親、教師などのもつ課題や悩み・困難の解決を援助することとともに、学校コミュニティへの援助をも目指すものである。

本演習では、学校臨床心理学の特徴を理解し、そのうえで、児童・生徒の心理発達的特徴をふまえ、生じやすい心理的不健康と問題に対する、スクールカウンセラーとしてのアプローチを検討する。具体的には、学術誌論文講読と、事例検討、ロールプレイなどの演習課題を行う。

【講義のねらい】
学校臨床心理学の特徴を、①児童・生徒への個別的相談活動、②保護者、教員へのコンサルテーション、③学内外の人的・物理的資源との連携・協働、④危機介入、の視点から理解する。スクールカウンセリングで扱われることの多い、不登校、いじめ、非行、発達障害、その他の精神医学的問題について、アセスメントと援助方針の立て方、介入の方法を検討する。

【到達目標】
個別臨床と学校臨床の差異を理解し、学校という場において心理的相談活動を行う実践力を養うこと、そして、現場での臨床活動と、実践をまとめ考察し新たな発想を生成するための研究活動を行き来する視座の基礎を養うことが到達目標である。

【授業計画】
1回目のオリエンテーションにおいて、受講者の関心の所在により詳細は決定するが、2～3回は学校臨床心理学の特徴についての講義と質疑応答、以降は、学校コミュニティ、あるいは個別事例を対象とした学術論文等文献講読とディスカッション、事例検討とロールプレイを行う。

【成績評価方法・基準】
演習内容にかかわるレポートと、実習・発表・貢献度・参加態度から総合的に評価する。

【教科書・参考書】
随時、ハンドアウトを配布。
「臨床心理学研究」等の学術論文の他、必要に応じて紹介する。

学校臨床心理学演習Ⅱ（後期）（2単位）　岩田淳子

【講義題目】
学生相談研究

【講義概要】
学生相談とは、大学キャンパスにある学生相談機関（名称は大学により異なる）で、入学から卒業までの限定された期間に行われる、大学生に対する心理的相談活動の総称である。

本演習では、学生相談の意味と大学教育との関係、学生理解の視点と学生相談の実際を検討する。具体的には、学術誌論文講読と、事例検討、ロールプレイなどの演習課題を行う。

【講義のねらい】
学生相談の特徴を、①学生への個別的相談活動、②大学コミュニティにおける連携・協働、③学生相談と教育、④危機介入、の視点から理解する。学生相談で扱われる相談内容（進路修学・心理性格・対人関係・学生生活・心身健康等）について、アセスメントと援助方針の立て方、介入の方法を検討する。

【到達目標】
個別臨床と学生相談臨床の差異を理解し、大学という高等教育機関において心理的相談活動を行う実践力を養うこと、そして、現場での臨床活動と、実践をまとめ考察し新たな発想を生成するための研究活動を行き来する視座の基礎を養うことが到達目標である。

【授業計画】
１回目のオリエンテーションにおいて、受講者の関心の所在により詳細は決定するが、２～３回は学生相談臨床の概要と特徴についての講義と質疑応答、以降は、個別事例あるいは大学コミュニティを対象とした学術論文等文献講読と討議、事例検討（不登校とひきこもり、発達障害、自殺をめぐる問題、ハラスメントと事件性のある問題等）とロールプレイを行う。
【成績評価方法・基準】
演習内容にかかわるレポートと、実習・発表・貢献度・参加態度から総合的に評価する。
【教科書・参考書】
随時、資料を配布。「学生相談研究」等の学術論文の他、必要に応じて紹介する。
・大学における学生相談体制の充実方策について―「総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」―2007。独立行政法人日本学生支援機構。
・福田真也。2007。大学教職員のための大学生のこころのケア・ガイドブック―精神科と学生相談からの15章― 金剛出版。
・学生相談学会編。2010。『学生相談ハンドブック』学苑社（２月刊行予定）

研究指導Ⅰ（前期）（２単位）・研究指導Ⅱ（後期）（２単位）　遠　藤　健　治

【研究指導概要】
心理学に関して、学部教育の基盤の上に更に専門の学術を研究し、精深な学識と研究能力を養い、心理学分野における研究能力、あるいはその学識に加えて高度の専門性を求められる職業を担うための卓越した能力の修得を目的とし、特に社会心理学および心理統計学の観点から、修士論文の作成指導を行う。
【研究指導のねらい】
修士論文作成のために、理論を構築する力、データを解析する力の増強を目指す。
【到達目標】
①卒業論文をまとめ直し、学会もしくは研究誌に発表する　②先行研究を渉猟し、修士論文の理論的枠組みを構築する
③予備的研究（調査や実験等）を行い、２年次での実証研究の素地を作成する。
【研究指導計画】
毎週定時に研究室にて、①卒業論文の再構成と校閲、投稿準備、②先行研究の発表と検討、③予備的研究の計画立案と結果処理報告・検討を行う。
【成績評価方法・基準】
学会・学会誌への発表状況、先行研究の検討状況、修士論文の研究計画立案状況、予備的研究の遂行状況を総合して評価をつける。

研究指導Ⅰ（前期）（２単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】
学部で涵養した心理学の知識、実践技能を総合して自分自身の研究について概観し具体的な方法論を探求します。それぞれの学生の興味の核心を明確化し、それについてのもっとも望ましく、かつ限られた時間と環境で実現できる方法を選び出して行きます。さらに、今後の研究の発展性も考慮しながら、研究の総括として論文作成を支援します。
【研究指導のねらい】
研究者としての第一歩としてできる限り可能性に開かれた研究を目指します。
【到達目標】
修士論文の見通しを明確化することがまず重要です。
【研究指導計画】
ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと並行して論文執筆を指導します。
【成績評価方法・基準】
論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。
【参考文献】
適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅱ（後期）（２単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】
研究指導Ⅰの成果を継承しながら、研究資料を収集することを支援し、論文全体の論理的整合性と精緻化を進めます。

【研究指導のねらい】
研究者としての第一歩としてできる限り可能性に開かれた研究を目指します。
【到達目標】
修士論文の内容を具体化した構想を練ります。
【研究指導計画】
ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと並行して論文執筆を指導します。
【成績評価方法・基準】
論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。
【参考文献】
適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅰ（前期）（２単位）・研究指導Ⅱ（後期）（２単位）　平　山　栄　治

【研究指導概要】
臨床心理学、精神分析学、および人間性心理学の分野で修士論文を執筆しようとする院生の論文指導を行う。院生自身が研究したいテーマを見つけだすことを重視している。特に、心理療法、カウンセリング、グループアプローチ、エンカウンターグループ、アイデンティティー、人格、適応、病理、自己実現、文化といったテーマについての助言指導を行う。
【研究指導のねらい】
臨床心理学の中から各自の研究テーマを見つけ出し、修士論文作成について助言指導する。
【到達目標】
臨床心理学に関する修士論文を作成する。
【研究指導計画】
１．各自の研究テーマの探索、文献検索
２．研究テーマの決定と方法論の検討
３．データの収集と分析、考察
４．論文執筆
【成績評価方法・基準】
研究会への出席、討論への積極的参加、文献レビューレポートの提出と発表、研究計画の発表と討論、データ分析と考察などを総合的に評価する。

研究指導Ⅰ（前期）（２単位）・研究指導Ⅱ（後期）（２単位）　丸　山　千　秋

【研究指導概要】
学部教育の基盤の上に、さらに専門の学術を研究します。とくに、臨床心理学および障害児心理学の観点から、独自性のある深い学識と精緻な研究能力を養い、修士論文のための研究計画を作成できるように指導を行います。
【研究指導のねらい】
先行研究を批判的に読み解けるようになること、その中で、自分の研究の独自性を出し、研究計画を立てることができるようになることをねらいとします。
【到達目標】
修士論文作成のための文献研究および研究計画作成を目標とします。
【研究指導計画】
毎週１度、研究指導を行います。
【成績評価方法・基準】
修士論文作成のための研究計画の評価、および、日頃の研究への取り組み、出席を総合的に評価します。
【参考文献】
研究指導の中で指示します。

研究指導Ⅰ（前期）（２単位）・研究指導Ⅱ（後期）（２単位）　山　根　律　子

【研究指導概要】
以下の活動について指導する。
１．各自の研究テーマに沿って、定期的に研究会で発表を行ない、修士論文作成に向けての研究を進める。

2．学内外の発達臨床の場での実習に参加し、スーパーバイズを受ける。
3．学部生の研究について、アドバイスを行なう。
4．学会での発表、学術雑誌への投稿論文の作成を行なう。

【研究指導のねらい】

質の高い修士論文の作成をねらいとするとともに、発達臨床にかかわる者としての資質の向上をはかる。

【到達目標】

修士論文の完成、臨床心理士・臨床発達心理士資格を取得するために求められる知識、技能、人間性の獲得。

【研究指導計画】

1．月2回の研究会および臨床チーム実習への参加
2．前・後期各数回の学部ゼミへの参加および学部生指導
3．学外臨床実習に対するスーパーバイズ
4．作成論文に関する指導

【成績評価方法・基準】

研究内容、作成論文、臨床実習等を総合的に評価する。

【参考文献】

特に定めない。

研究指導Ⅰ（前期）（2単位）・研究指導Ⅱ（後期）（2単位）　小　俣　和　義

【研究指導概要】

心理学に関して、学部教育の基盤の上にさらに専門の学術を研究し、深い学識と研究能力を養う。心理学分野における高度の専門性や卓越した能力を習得するために、研究計画の立て方や進め方についてさまざまな観点から指導を行う。これらの専門的な技能を磨きながら、臨床心理学や心理査定学の観点から修士論文の作成に向けて具体的な助言を行う。自身の研究のみならず、他者の研究に関して幅広い観点から吟味し、議論できる能力の向上も目指す。

【研究指導のねらい】

心理学に関する学術研究を行っていくための専門的な素養を修得することをおもなねらいとする。自らの目的に沿って、先行研究を精査し、主体的に研究計画を立て、かつ正確に研究を遂行できる能力を養う。オリジナリティを見つける能力や、自身独自の見解を他の研究者に対して明確に伝えるプレゼンテーション技能の向上も重要と考えている。

【到達目標】

研究者および指導者としての資質を高め、専門技能を有した職業人として社会に高く貢献できる人材になる。

【研究指導計画】

研究論文作成に向けて、文献講読、データ収集や分析の方法、考察の展開などについて、さまざまな観点から議論をする。

【成績評価方法・基準】

研究内容、出席および発表、課題の達成度をもとに評価する。

【参考文献】

随時紹介する。

研究指導Ⅰ（前期）（2単位）・研究指導Ⅱ（後期）（2単位）　坂　上　裕　子

【研究指導概要】

生涯発達心理学の観点から、修士論文の作成指導を行う。

【研究指導のねらい】

修士論文の作成に向け、論文作成の諸ステップ（先行研究の概観、リサーチクエスチョンの設定、調査計画の立案、調査の実施、データの分析等）において必要とされる基本的な技能を修得することをねらいとする。

【到達目標】

修士論文の作成を通して、専門分野においてオリジナリティのある研究を遂行する能力や、研究者としての倫理を身につけることを目標とする。

【研究指導計画】

基本的には、各受講者が修士論文の進行の度合いに応じて発表を行い、それに対して、受講者全員で討論を行うこととする。学期末には、各自の半期の成果を発表する報告会を行う。

【成績評価方法・基準】

出席および発表内容、研究内容などを総合的に評価する。

【参考文献】
特に定めない。

研究指導Ⅰ（前期）（２単位）・研究指導Ⅱ（後期）（２単位）　繁　桝　江　里

【研究指導概要】
心理学に関して、学部教育の基盤の上に更に専門の学術を研究し、精深な学識と研究能力を養い、心理学分野における研究能力あるいはその学識に加えて高度の専門性を求められる職業を担うための卓越した能力の習得を目的とし、特に社会心理学、産業組織心理学、および対人コミュニケーションのテーマで修士論文を作成するための指導を行います。
【研究指導のねらい】
独自の研究テーマを設定し、研究計画を立案・実施し、データ解析の結果を考察する、という修士論文作成のプロセスを経ることで、研究者の基礎能力の習得を目指します。
【到達目標】
研究指導Ⅰ・Ⅱでは、研究テーマに関わる先行研究のレビュー、研究課題と研究手法に関する議論、予備的な研究の実施までを到達目標とします。
【研究指導計画】
毎週１度、各研究段階の報告および議論を行います。
【成績評価方法・基準】
研究内容、および、議論への参加程度を総合的に評価します。
【参考文献】
研究テーマに応じて指示します。

研究指導Ⅰ（前期）（２単位）・研究指導Ⅱ（後期）（２単位）　薬師神　玲　子

【研究指導概要】
心理学に関して、学部教育の基盤の上に更に専門の学術を研究し、精深な学識と研究能力を養い、心理学分野における研究能力、あるいはその学識に加えて高度の専門性を求められる職業を担うための卓越した能力の習得を目的とし、特に知覚心理学、認知心理学および人間情報科学の観点から、修士論文の中核となる研究の計画および実施指導を行う。
【研究指導のねらい】
修士論文の作成を通して、専門分野における研究能力および学識の向上をはかり、かつ、専門性の高い職業を担う為の論理的思考力、企画力、実行力を養う。
【到達目標】
知覚心理学、認知心理学または人間情報科学の分野における専門性の高い研究手法を習得し、これを用いた専門性の高い研究を行う。
【研究指導計画】
先行研究のレビューおよび研究手法の習得から報告書（論文）の作成まで、個別に指導を行う。
【成績評価方法・基準】
研究報告書に基づいて評価を行う。
【参考文献】
適宜、指示する。

研究指導Ⅲ（前期）（２単位）・研究指導Ⅳ（後期）（２単位）　遠　藤　健　治

【研究指導概要】
心理学に関して、研究指導Ⅰ・Ⅱの基盤の上に更に専門の学術を研究し、精深な学識と研究能力を養い、心理学分野における研究能力、あるいはその学識に加えて高度の専門性を求められる職業を担うための卓越した能力の修得を目的とし、特に社会心理学および心理統計学の観点から、修士論文の作成指導を行う。
【研究指導のねらい】
修士論文作成を通して高度の研究能力と態度の涵養を目指す。
【到達目標】
①修士論文の理論的枠組みを構築する、②実証的研究（調査や実験等）を行い、③修士論文を完成させる。
【研究指導計画】
毎週定時に研究室にて、①先行研究の発表と検討、②実験研究の計画立案と結果処理報告・検討、③修士論文の作成指導

を行う。

【成績評価方法・基準】

学会・学会誌への発表状況、先行研究の検討状況、修士論文の研究計画立案状況、修士論文の到達度を総合して評価をつける。

研究指導Ⅲ（前期）（2単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】

学部および修士課程1年で涵養した心理学の知識、実践技能を総合して自分自身の研究について概観し具体的な方法論を探求します。それぞれの学生の興味の核心を明確化し、その興味を具体化できる方法論を導き出して、実践に移す作業を開始します。

【研究指導のねらい】

研究者としての第一歩としてできる限り可能性に開かれた研究を目指します。

【到達目標】

修士論文の見通しを実践に移行することが目標です。

【研究指導計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力しながら、論文を執筆の導入を支援します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【参考文献】

適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅳ（後期）（2単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】

研究指導Ⅰ～Ⅲの成果を継承しながら、得られた研究資料の整理、分析、さらに考察の構想などの推敲を支援します。

【研究指導のねらい】

修士論文で得られた成果と次の展開を論述し、現在の研究の位置づけの明確化を目指します。

【到達目標】

修士論文の完成を目標とします。

【研究指導計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと並行して論文に関する可能な限りの論点提示とその整理を指導し、論理的展開を検討します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【参考文献】

適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅲ（前期）（2単位）・研究指導Ⅳ（後期）（2単位）　平　山　栄　治

【研究指導概要】

臨床心理学、精神分析学、および人間性心理学の分野で修士論文を執筆しようとする院生の論文指導を行う。院生自身が研究したいテーマを見つけだすことを重視している。特に、心理療法、カウンセリング、グループアプローチ、エンカウンターグループ、アイデンティティー、人格、適応、病理、自己実現、文化といったテーマについての助言指導を行う。

【研究指導のねらい】

臨床心理学の中から各自の研究テーマを見つけ出し、修士論文作成について助言指導する。

【到達目標】

臨床心理学に関する修士論文を作成する。

【研究指導計画】

1．各自の研究テーマの探索、文献検索
2．研究テーマの決定と方法論の検討
3．データの収集と分析、考察

4．論文執筆

【成績評価方法・基準】

研究会への出席、討論への積極的参加、文献レビューレポートの提出と発表、研究計画の発表と討論、データ分析と考察などを総合的に評価する。

研究指導Ⅲ（前期）（2単位）・研究指導Ⅳ（後期）（2単位）　丸　山　千　秋

【研究指導概要】

研究指導ⅠおよびⅡの基盤の上に、さらに専門性を高め、とくに、臨床心理学および障害児心理学の観点から、独自性のある修士論文の作成について指導を行います。

【研究指導のねらい】

自分の研究の独自性を出し、研究計画に基づいて修士論文作成のための手順を踏んで、データ収集、データの処理、論述を組み立てることができるようになることをねらいとします。

【到達目標】

修士論文の作成および提出を目標とします。

【研究指導計画】

毎週1度、研究指導を行います。

【成績評価方法・基準】

修士論文の評価、および、日頃の研究への取り組み、出席を総合的に評価します。

【参考文献】

研究指導の中で指示します。

研究指導Ⅲ（前期）（2単位）・研究指導Ⅳ（後期）（2単位）　山　根　律　子

【研究指導概要】

以下の活動について指導する。

1．各自の研究テーマに沿って、定期的に研究会で発表を行ない、修士論文作成に向けての研究を進める。

2．学内外の発達臨床の場での実習に参加し、スーパーバイズを受ける。

3．学部生の研究について、アドバイスを行なう。

4．学会での発表、学術雑誌への投稿論文の作成を行なう。

【研究指導のねらい】

質の高い修士論文の作成をねらいとするとともに、発達臨床にかかわる者としての資質の向上をはかる。

【到達目標】

修士論文の完成、臨床心理士・臨床発達心理士資格を取得するために求められる知識、技能、人間性の獲得。

【研究指導計画】

1．月2回の研究会および臨床チーム実習への参加

2．前・後期各数回の学部ゼミへの参加および学部生指導

3．学外臨床実習に対するスーパーバイズ

4．作成論文に関する指導

【成績評価方法・基準】

研究内容、作成論文、臨床実習等を総合的に評価する。

【参考文献】

特に定めない。

研究指導Ⅲ（前期）（2単位）・研究指導Ⅳ（後期）（2単位）　小　俣　和　義

【研究指導概要】

心理学に関して、研究指導Ⅰ・Ⅱの基盤の上にさらに専門の学術を研究し、深い学識と研究能力を養う。心理学分野における高度の専門性や卓越した能力を習得するために、研究計画の立て方や進め方についてさまざまな観点から指導を行う。これらの専門的な技能を磨きながら、臨床心理学や心理査定学の観点から修士論文の作成に向けて具体的な助言を行う。自身の研究のみならず、他者の研究に関して幅広い観点から吟味し、議論できる能力の向上も目指す。

【研究指導のねらい】

心理学に関する学術研究を行っていくための専門的な素養を修得することをおもなねらいとする。自らの目的に沿って、

先行研究を精査し、主体的に研究計画を立て、かつ正確に研究を遂行できる能力を養う。オリジナリティを見つける能力や、自身独自の見解を他の研究者に対して明確に伝えるプレゼンテーション技能の向上も重要と考えている。さらには、現代社会に広く貢献できる資質と素養を身に付けることも目標とする。

【到達目標】

研究者、指導者および心理臨床の専門家としての資質を高め、専門技能を有した職業人として社会に高く貢献できる人材になる。

【研究指導計画】

研究論文作成に向けて、文献講読、データ収集や分析の方法、考察の展開などについて、さまざまな観点から議論をする。深く学問を考究する。

【成績評価方法・基準】

研究内容、出席状況および発表内容、課題の達成度をもとに評価する。授業での学習態度も重要な評価項目である。

【参考文献】

随時紹介する。

研究指導Ⅲ（前期）（2単位）・研究指導Ⅳ（後期）（2単位）　坂　上　裕　子

【研究指導概要】

生涯発達心理学の観点から、修士論文の作成指導を行う。

【研究指導のねらい】

修士論文の作成に向け、論文作成の諸ステップ（先行研究の概観、リサーチクエスチョンの設定、調査計画の立案、調査の実施、データの分析等）において必要とされる基本的な技能を修得し、修士論文を完成させることをねらいとする。

【到達目標】

修士論文の作成を通して、専門分野においてオリジナリティのある研究を遂行する能力や、研究者としての倫理を身につけることを目標とする。

【研究指導計画】

基本的には、各受講者が修士論文の進行の度合いに応じて発表を行い、それに対して、受講者全員で討論を行うこととする。学期末には、各自の半期の成果を発表する報告会を行う。

【成績評価方法・基準】

出席および発表内容、研究内容、修士論文の完成度などをもって総合的に評価する。

【参考文献】

特に定めない。

研究指導Ⅲ（前期）（2単位）・研究指導Ⅳ（後期）（2単位）　繁　桝　江　里

【研究指導概要】

心理学に関して、研究指導Ⅰ・Ⅱの基盤の上に更に専門の学術を研究し、精深な学識と研究能力を養い、心理学分野における研究能力あるいはその学識に加えて高度の専門性を求められる職業を担うための卓越した能力の習得を目的とし、特に社会心理学、産業組織心理学、および対人コミュニケーションのテーマで修士論文を作成するための指導を行います。

【研究指導のねらい】

独自の研究テーマを設定し、研究計画を立案・実施し、データ解析の結果を考察する、という修士論文作成のプロセスを経ることで、研究者の基礎能力の習得を目指します。

【到達目標】

研究指導Ⅲ・Ⅳでは、研究指導Ⅰ・Ⅱで検討した研究計画や予備的な研究の結果に基づき、研究を実施してデータを解析し、その結果および考察を修士論文にまとめることを到達目標とします。

【研究指導計画】

毎週1度、各研究段階の報告および議論を行います。

【成績評価方法・基準】

研究内容、および、議論への参加程度を総合的に評価します。

【参考文献】

研究テーマに応じて指示します。

研究指導Ⅲ（前期）（２単位）　　薬師神　玲　子

【研究指導概要】

学部および修士課程１年で涵養した心理学の知識、実践技能を総合して自分自身の研究について概観し具体的な方法論を探究します。それぞれの学生の興味の核心を明確化し、その興味を具体化できる方法論を導き出して、実践に移す作業を開始します。

【研究指導のねらい】

研究者としての第一歩としてできる限り可能性に開かれた研究を目指します。

【到達目標】

修士論文の見通しを実践に移行することが目標です。

【授業計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力しながら、論文を執筆の導入を支援します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【テキスト・参考書】

適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅳ（後期）（２単位）　　薬師神　玲　子

【研究指導概要】

研究指導Ⅰ～Ⅲの成果を継承しながら、得られた研究資料の整理、分析、さらに考察の構想などの推敲を支援します。

【研究指導のねらい】

修士論文で得られた成果と次の展開を論述し、現在の研究の位置づけの明確化を目指します。

【到達目標】

修士論文の完成を目標とします。

【授業計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと平行して論文に関する可能な限りの論点提示とその整理を指導し、論理的展開を検討します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【テキスト・参考書】

適宜、授業中に紹介します。

【心理学専攻（博士前期課程）臨床心理学コース　講義内容】

臨床心理学特論Ⅰ（前期）（2単位）　丸　山　千　秋

【講義概要】

この講義は、臨床心理学コースの必修科目であり、臨床心理士の受験資格を得るためにも必修となっています。心理臨床家に求められている臨床心理面接、臨床心理査定、臨床心理的地域援助、臨床心理学の研究などを中心に、実習や討論もまじえながら、概説します。

【講義のねらい】

臨床心理士に必須とされる4領域に関して理解を深めるとともに、授業中の討論によって、他者の意見を聴くこと、自分の意見を開示することを体験的に学ぶことをねらいとします。

【到達目標】

上述の講義のねらいが理解され、身につき、実践されるようになることを目標とします。

【授業計画】

1　　授業のガイダンス
2～5　臨床心理面接
6～9　臨床心理査定
10～12　臨床心理的地域援助
13～15　臨床心理学の研究

【成績評価方法・基準】

中間および学期末のレポート、授業中の討論、出席その他を総合的に判断して認定します。出席は3分の2以上、毎回の講義で発言することを最低の基準とします。

【テキスト】

第1回目のガイダンスのときに紹介します。

【参考書】

鑪・名島編著 「新版心理臨床家の手引」誠信書房
その他の参考書は、授業のときに、そのつど、紹介します。

臨床心理学特論Ⅱ（後期）（2単位）　丸　山　千　秋

【講義概要】

この講義は、臨床心理学コースの必修科目であり、臨床心理士の受験資格を得るためにも必修となっています。前期の「臨床心理学特論Ⅰ」の内容をより深めたうえで、心理臨床家が実際に現場に出た時に求められている、地域の社会資源との連携、他専門職種との連携、その他、諸々のことを中心に、討論をまじえながら概説します。最後に、筆者の得意とする臨床動作法について体験してもらいます。

【講義のねらい】

前期の「臨床心理学特論Ⅰ」の内容をより深めたうえで、臨床心理士が現場に出たときに必要となる事項について理解を深めるとともに、授業中の討論によって、他者の意見を聴くこと、自分の意見を開示することを体験的に学ぶことをねらいとします。

【到達目標】

上述の講義のねらいが理解され、身につき、実践されるようになることを目標とします。

【授業計画】

1　　授業のガイダンス
2～6　臨床心理面接・臨床心理査定・臨床心理的地域援助・臨床心理学の研究の4領域をより深めるために
7～8　地域の社会資源との連携
9～10　他専門職の専門性と、他専門職との連携
11～12　臨床活動をする上で知っておくべきさまざまな問題
13～15　臨床動作法の体験

【成績評価方法・基準】

中間および学期末のレポート、授業中の討論、出席その他を総合的に判断して認定します。出席は3分の2以上、毎回の講義で発言することを最低の基準とします。

【テキスト】
第１回目のガイダンスのときに紹介します。
【参考書】
鑪・名島編著 「新版心理臨床家の手引」誠信書房
その他の参考書は、授業のときに、そのつど、紹介します。

臨床心理面接特論Ⅰ（前期）（２単位） 平 山 栄 治

【講義概要】
現代精神分析学の中核理論であるクライン派対象関係論を取り上げる。中でも現代精神分析に大きな影響を与えたWilfred Bionの貢献について検討する。また、このBionの流れからその後どのような理論的治療的展開が生じているのかについて紹介し、検討を加える。文献資料は最初の授業で指示する。
【講義のねらい】
現代精神分析学、ビオンの対象関係論を学ぶ。
【到達目標】
現代精神分析学、クライン派対象関係論の概要、そしてビオンの貢献について理解すること。
【授業計画】
１．導入（＃１）
２．Bion紹介（＃２～５）
３．Bionの貢献（＃６～13）
【成績評価方法・基準】
出席、課題文献についての討論、発表などを総合的に評価する。
【テキスト・参考書】
文献資料は最初の授業で指示する。参考書は、小此木啓吾・北山修『精神分析事典』岩崎学術出版社

臨床心理面接特論Ⅱ（後期）（２単位） 平 山 栄 治

【講義概要】
現代精神分析に大きな影響を与えたWilfred Bionの流れからその後どのような理論的治療的展開が生じているのかについて紹介し、検討を加える。また、その時々に同時並行する形でいくつかのトピックを取り上げ、幅広く文献を講読し、討論する予定である。文献資料は最初の授業で指示する。
【講義のねらい】
現代精神分析学、クライン派対象関係論を学ぶ。
【到達目標】
クライン派対象関係論、ビオンの現代精神分析学への影響について理解すること。
【授業計画】
１．Bionの貢献（＃１～５）
２．Bionの現代精神分析学への影響（＃６～10）
３．トピック（＃11～13）
【成績評価方法・基準】
出席、課題文献についての討論、発表などを総合的に評価する。
【テキスト・参考書】
文献資料は最初の授業で指示する。参考書は、小此木啓吾・北山修『精神分析事典』岩崎学術出版社

臨床心理査定演習Ⅰ（前期）（２単位） 小 俣 和 義

【講義題目】
心理検査の施行方法、スコアリングを学ぶ。
【講義概要】
心理臨床場面における心理査定の基本について概説します。また、ロールシャッハ・テストを中心に、実施方法やスコアリング、データ集計の技法を学んでいきます。授業のなかで、実際に各自に検査者・被検者の体験実習をしてもらいます。したがって、授業には毎回出席することを原則とします。本演習では、心理検査を通して、相手の心の動きや体験のプロセスを読みとる実践的な素養を身につけていくことをおもな目的としています。

【講義のねらい】
心理臨床におけるアセスメントの基礎を身につける。
【到達目標】
ロールシャッハ・テストの施行、スコアリングを正確に行えるようになる。
【授業計画】
1　授業の目的、心理査定法の概説
2　臨床心理査定の基本的留意事項
3　ロールシャッハ・テストの実際
4　ロールシャッハ・テスト／施行上の留意点
5　ロールシャッハ・テスト／実習（1）
6　ロールシャッハ・テスト／実習（2）
7　ロールシャッハ・テスト／スコアリング（1）
8　ロールシャッハ・テスト／スコアリング（2）
9　ロールシャッハ・テスト／量的分析（1）
10　ロールシャッハ・テスト／量的分析（2）
11　ロールシャッハ・テスト／内容分析（1）
12　ロールシャッハ・テスト／内容分析（2）
13　臨床心理査定のまとめ
【成績評価方法・基準】
学期末の試験（50%）、授業中に適宜提示した課題（30%）、授業出席（20%）を基準に評価。
【テキスト】
片口安史　1987『改訂　新・心理診断法―ロールシャッハ・テストの解説と研究―』金子書房
【参考書】
・辻悟著　1997『ロールシャッハ検査法―形式・構造解析に基づく解釈の理論と実際』金子書房
・岡堂哲雄編　1998『心理査定プラクティス』至文堂
・E.G.シャハテル　空井健三・上芝功博訳『ロールシャッハ・テストの体験的基礎』みすず書房

臨床心理査定演習Ⅱ（後期）（2単位）　小　俣　和　義

【講義題目】
心理検査データの読み方を学ぶ
【講義概要】
臨床心理査定演習Ⅰで学んだ基本的知識や技能をさらに深めていくかたちで授業を進めていきます。ロールシャッハ・テストについては、継起分析を中心に実際のデータから得られた情報を基に解釈を行っていきます。また、実際の臨床査定事例も提示し、具体的な資料からクライエントの心の動きをとらえていく訓練をグループ・ディスカッションの中で行います。この場合、自分の見立てや理解を積極的に発言していくことが求められます。さらに、P-Fスタディや質問紙法検査など他の検査の実習も加え、テスト・バッテリーについても概説する予定です。最後には、臨床心理査定所見の作り方についても触れたいと思います。
【講義のねらい】
心理アセスメントを臨床現場で応用できるようにする。
【到達目標】
検査から得られたデータを量的・質的に読み取れるようになる。
【授業計画】
1　心理査定法の概説
2　ロールシャッハ・テスト／データの解釈
3　ロールシャッハ・テスト／継起分析（1）
4　ロールシャッハ・テスト／継起分析（2）
5　ロールシャッハ・テスト／継起分析（3）
6　ロールシャッハ・テスト／事例検討（1）
7　ロールシャッハ・テスト／事例検討（2）
8　ロールシャッハ・テスト／病態水準の見極め方

9　投映法／P–F スタディほか
10　質問紙法／CMI ほか
11　質問紙法／各種性格検査
12　臨床心理査定報告書の作成の方法
13　臨床心理査定を通した対人援助のまとめ

【成績評価方法・基準】

学期末の試験（50%）、授業中に適宜提示した課題（30%）、授業出席（20%）を基準に評価。

【テキスト・参考書】

片口安史　1987『改訂　新・心理診断法―ロールシャッハ・テストの解説と研究―』金子書房

臨床心理基礎実習Ⅰ（前期）（１単位）

北　村　文　昭・平　山　栄　治・丸　山　千　秋・小　俣　和　義

【講義概要】

臨床心理査定、臨床心理面接の技能を養成するために基礎的な実習、ロールプレイ、および体験実習を実践します。心理相談における電話受付、受理面接、心理査定の見立て、カンファレンスへの報告、外部機関との連携、面接、面接記録・逐語録の作成、その他の相談施設運営の諸活動などを実習します。心理面接の実習では、ロールプレイにカウンセリング実習を行い、カウンセラーとしてクライエントの話を受け止め、また、自らがクライエントとしての自分自身の内面に取り組む体験学習を進めます。

【講義のねらい】

相談活動のための準備、道具立て、留意事項などに注意を向け、また臨床家を目指す者としての自覚を促します。

【到達目標】

相談活動のための環境整備やカウンセラー自身の心身の充実の必要性について体験してもらいます。

【授業計画】

担当教員が、相談室での実際のケースについて特に充実した活動に必要な環境整備に注意を促しながら指導を行います。

【成績評価方法・基準】

担当の教員の評価を加算し、教員数で除して評価点とします。

【テキスト・参考書】

各教員が講義時間中に指示します。

臨床心理基礎実習Ⅱ（後期）（１単位）

北　村　文　昭・平　山　栄　治・丸　山　千　秋・小　俣　和　義

【講義概要】

臨床心理基礎実習Ⅰに引き続き、臨床心理査定と臨床心理面接の基礎を実習します。基本的な相談施設運営に参加し、具体的な心理査定や心理面接を学習します。受理面接でのクライエントへの対応、主訴や問題行動の内容の経過の把握、誘引、病歴、成育歴、家族構成、クライエントの人格把握、自傷他害に関する見立てと手立てを、インテーク会議への報告とクライエントへのフィードバックのあり方などに焦点を当てて、具体的なケースに沿って研修します。

【講義のねらい】

前期に引き続き、相談活動や相談室運営に関する要件に注意を向け、また受講生自身の臨床実践の充実を促します。

【到達目標】

相談活動のための環境整備や受講生自身の心身の充実の維持、そして増進を促します。

【授業計画】

担当教員が、相談室での実際のケースについて特に充実した活動に必要な環境整備に注意を促しながら指導を行います。

【成績評価方法・基準】

担当の教員の評価を加算し、教員数で除して評価点とします。

【テキスト・参考書】

各教員が講義時間中に指示します。

臨床心理実習Ⅰ（前期）（１単位）

北　村　文　昭・平　山　栄　治・丸　山　千　秋・小　俣　和　義

【講義概要】

付属の心理相談室での心理査定、相談業務について研修します。面接の導入期、展開期、終結期などにおいて、何が行われて、何が行われていないかについて検討を加えます。

【講義のねらい】

初学者が業務の中核である相談業務をまず実体験することが重要です。また、相談が心理臨床の枠組みの中で展開されることを確認してもらいます。

【到達目標】

実体験に即して心理臨床を展開していく上でどのような資質や能力が必要であるのか、受講者が自分自身と向き合う機会にします。

【授業計画】

担当教員が、相談室での実際のケースについて適宜、必要な理論や技法そして注意事項を織り込みながら指導を行います。

【成績評価方法・基準】

担当の教員の評価を加算し、教員数で除して評価点とします。

【テキスト・参考書】

各教員が講義時間中に指示します。

臨床心理実習Ⅱ（後期）（１単位）

北　村　文　昭・平　山　栄　治・丸　山　千　秋・小　俣　和　義

【講義概要】

臨床心理実習Ⅰに引き続き、心理相談室の心理査定、相談業務について研修します。面接の導入期、展開期、終結期などにおいて、それまでの面接の展開を事例検討会で発表し、面接で何が行われ、何が行われていないかについて検討を加え、面接状況での現象の理解を深めます。

【講義のねらい】

前期から継続するケースが心理臨床の枠組みの中で展開され、また終結に向かっているのか、また場合によっては終結後について適切な対応は何であるかなど相談活動全体を実習してもらいます。

【到達目標】

実際のケースを受講者自身が担当する機会が増えます。実体験と臨床の知を総合して、自分自身の臨床の姿勢を確認して行きます。

【授業計画】

担当教員が、相談室での実際のケースについて適宜、必要な理論や技法そして注意事項を織り込みながら指導を行います。

【成績評価方法・基準】

担当の教員の評価を加算し、教員数で除して評価点とします。

【テキスト・参考書】

各教員が講義時間中に指示します。

心理学研究法演習Ⅰ（前期）（２単位）・心理学研究法演習Ⅱ（後期）（２単位）

北村　文昭・入不二　基義・遠藤　健治・平山　栄治・丸山　千秋・
山根　律子・小俣　和義・坂上　裕子・繁桝　江里・薬師神　玲子

【講義概要】

受講者は各自の研究について取り上げ、内容を発表する。その後、全員でその研究についての問題点を指摘し、内容の改善法を考える。発表はパワーポイントを用いて、学会形式で行う。各回とも、発表がすべて終了した後に、全員でその日の発表に関して、全体討論を行う。

【講義のねらい】

学会の発表形式で行うことにより、実際に学会発表を行う際の能力向上を図る。また、教員・他の院生からの質問や疑問に答えることにより、自身の研究の問題点について考える力を磨く。

全院生の発表を聞くことにより、知識をはば広く積むことが出来るようにする。

他の院生の発表を聞くことにより、自身の研究進捗状況を見直し、互いに切磋琢磨することにより研究意欲の促進をはかる。

【到達目標】
実際に学会発表が出来るようにすること、さらにその能力をアップすること。
自分と異なる研究テーマの発表に対して、要領よく的をついた質問が出来るようにする。
全体討論を通して、質疑応答の能力を向上させる。
【授業計画】
初回は、専攻主任と院生全員が集まり、発表順や発表方法などについて、説明する。
２回目以降は、順に研究発表を行う。
【成績評価方法・基準】
研究発表をすることと質疑応答などを含めた平常点、出席率により評価する。
なるべく全回出席することが望ましい。また、積極的に質疑応答に参加することが望ましい。
【テキスト・参考書】
授業中に指示する。

心理測定統計論Ⅰ（前期）（２単位）　　遠　藤　健　治

【講義題目】
線型モデルと回帰
【講義概要】
心理学では、説明・予測したい変数（現象・事象）を y で表し、それを説明するために研究者が統制した変数（要因）を x で表したとき、両者の関係を

$$y = wx + E$$

と表すことがある。w は重み付け、E は誤差である。もし、影響要因が複数なら

$$y = w_0 + w_1x_1 + w_2x_2 + \cdots + w_px_p + E$$

と書くことも可能である。つまり、y という現象は、いくつかの要因がそれぞれ幾分かの影響をもたらしながら、その総和として説明できると考えるわけである。このような考え方を一般線型モデルという。影響要因を特定し、かつその影響の程度を推定することが心理学の仕事の一つと言うこともできよう。この授業では、論文執筆上適用頻度の高い手法として、分散分析と重回帰分析を取り上げる。
【講義のねらい】
パーソナルコンピュータ上で動く表計算ソフト（Microsoft Excel）および汎用ソフト（SAS、SPSS）を用いて、受講者全員が実際に数値処理をしながら授業を進め、単に知識として諸技法を学ぶのではなく、実践的スキルの修得もめざす。また、複雑な人間の行動を統計分析することにより、単純で説明力・予測力のある「美しい」モデルを見いだすことの愉悦を体感してほしい。
【到達目標】
主たる目標：修士論文作成の際に必要となるデータ解析の知識とスキルを身につけること。
副次的目標：数式を「美しい」と思えるようになること、少なくとも数式に対するアレルギー反応が緩和されること。
【授業計画】
１．オリエンテーション
２．データの編集（1）
３．データの編集（2）
４．尺度構成
５．分散分析（1）
６．分散分析（2）
７．分散分析（3）
８．分散分析（4）
９．分散分析（5）
10．合成変量
11．重回帰分析（1）
12．重回帰分析（2）
13．重回帰分析（3）
【成績評価方法・基準】
出席状況（30%）と、学期末に提出してもらう課題レポート（70%）を総合して評価をつける。

【テキスト・参考書】
遠藤健治　2003『Excel、SAS、SPSS による統計入門』改訂版　培風館

心理測定統計論Ⅱ（後期）（2単位）　遠藤健治

【講義題目】
多変量解析の基本

【講義概要】
Ⅰでは、線型モデルの基本形として分散分析と重回帰分析を扱ったが、Ⅱではその他の回帰モデルの他、外的基準を持たない多変量解析を取り上げる。とりわけ、臨床では質的データを扱うことが多いので、その解析に有用な数量化理論を紹介する。

【講義のねらい】
Ⅰと同様、パーソナルコンピュータ上で動く表計算ソフト（Microsoft Excel）および汎用ソフト（SAS、SPSS）を用いて、受講者全員が実際に数値処理をしながら授業を進め、単に知識として諸技法を学ぶのではなく、実践的スキルの修得もめざす。これまで比率を求める程度で終わらせていた質的データについて、数量化理論を適用することにより、さらに検討の可能性が広がることも指摘したい。

【到達目標】
主たる目標：修士論文作成の際に必要となるデータ解析の知識とスキルを身につけること。
副次的目標：統計解析を「面白い」と思えるようになること。

【授業計画】
1．判別分析
2．ロジスティック回帰分析
3．正準相関分析
4．類似度の数値化
5．クラスター分析
6．因子分析（1）
7．因子分析（2）
8．因子分析（3）
9．多次元尺度法
10．数量化理論Ⅰ
11．数量化理論Ⅱ
12．数量化理論Ⅲ
13．数量化理論Ⅳ

【成績評価方法・基準】
出席状況（30%）と、学期末に提出してもらう課題レポート（70%）を総合して評価をつける。

【テキスト・参考書】
遠藤健治　2003『Excel、SAS、SPSS による統計入門』改訂版　培風館

発達心理学研究Ⅰ（前期）（2単位）・発達心理学研究Ⅱ（後期）（2単位）　山根律子

【講義概要】
発達心理学研究Ⅰでは、基本的な発達検査・知能検査など発達臨床に必要な心理検査を実施し、その結果を解釈できるよう実習する。発達心理学研究Ⅱでは、発達に困難さがある子どもと、その子どもにかかわる人を支えるための心理職の役割について、ロールプレイングを交えて実践的に学ぶ。

【講義のねらい】
発達心理学研究Ⅰでは、臨床現場でよく使われる発達関連の検査の理解と習熟をめざす。発達心理学研究Ⅱでは、発達臨床の場に必要な知識とスキルの習得をはかる。

【到達目標】
発達判定、発達相談の現場で基本となる知識と技能を身につける。

【授業計画】
〔Ⅰ〕
1．対象理解のためのアセスメントの基礎

2．発達検査等の実施と分析　新版 K 式発達検査
3．　同
4．　WISC-Ⅲ知能検査
5．　同
6．　ITPA
7．　同
8．　K-ABC
9．　同
10.　DN-CAS 認知評価システム
11.　同
12. その他（絵画語彙発達検査、津守式乳幼児発達質問紙など）

〔Ⅱ〕
1．ガイダンス
2．子どもに障害のある仲間について説明する　1
3．　同　2
4．健常児の保護者に障害のある子どもについて説明する
5．学校の先生に障害のある子どもについて説明する
6．保護者に発達検査の結果について説明する　1
7．　同　2
8．社会的資源の利用について説明する　1
9．　同　2
10. 発達検査等から、療育計画を立てる　1
11.　同　2
12. まとめ

【成績評価方法・基準】

発達心理学研究Ⅰでは検査実習時および期末時のレポートにより評価、発達心理学研究Ⅱでは授業時の参加および毎回授業後に提出するミニレポートで評価する。

【テキスト・参考書】

とくに定めない

認知心理学演習Ⅰ（前期）（2 単位）　石　口　　彰

【講義題目】

感覚・知覚心理学の基礎

【講義概要】

感覚・知覚の基礎過程に関する最新の英文テキストを輪読する。さらに、毎回テキストに関する英文による小テストを行い、専門領域の英文読解と内容の理解に努める。また、summary を利用して、専門領域での英文作成方法を身につける。

【講義のねらい】

最新の英文テキストを輪読することにより、認知心理学の知識の刷新を図り、さらに、専門英語を読みこなせるようにする。

【到達目標】

英語で書かれた認知心理学テキストを読みこなせるだけの英語力を獲得し、専門領域に関して偏りのない知識を身につけ、演習Ⅱでの専門論文輪読につなげる。

【授業計画】

初回は、テキストと参考書の紹介。授業の進め方の説明。

2 回目－12回目は、英語テキストの各章を輪読。13回目以降は、summary を利用した英作文の練習。

【成績評価方法・基準】

平常点と出席点。

【テキスト・参考書】

授業中に指示する。

認知心理学演習Ⅱ（後期）（２単位）　　石　口　　彰

【講義題目】

感覚・知覚心理学の発展

【講義概要】

前半は感覚・知覚の基礎過程に関する最新の英語論文を輪読と英語論文作成練習を行う。後半は、学生が各自、感覚・知覚に関する論文を探し、解説の上、プレゼンテーションを行う。論文は、日本語および英語の両方を対象とする。

【講義のねらい】

最新の英語論文を輪読することにより、認知心理学の動向を知り、さらに、専門英語を読みこなせるようにする。後半では、プレゼンテーション技法を獲得させる。

【到達目標】

英語で書かれた認知心理学論文を読みこなせるだけの英語力を獲得し、専門領域に関して最新の知識を身につける。専門領域に関するプレゼンテーション能力を獲得する。

【授業計画】

初回は、文献の紹介とプレゼンテーション技法の解説。

２回目以降前半は、英語論文の輪読、後半は専門論文のプレゼンテーションと討論。

【成績評価方法・基準】

平常点と出席点。

【テキスト・参考書】

授業中に指示する。

教育心理学演習Ⅰ（前期）（２単位）　　松　村　茂　治

【講義概要】

この講義では、教育心理学を教育実践との関連の中で学んでいこうと思います。教育実践への心理学領域からのアプローチとしては、その筆頭に学校心理学をあげることができます。わが国でも、学校心理士資格の認定が進められてきている折、そのモデルとなった米国のスクール・サイコロジーの特徴や機能について解説を加えるところからスタートします。その後、学級集団の特徴とその理解の仕方、学級における教師と児童生徒との関係作りに関する実践的な研究、応用行動分析の立場からの学級経営（Classroom Management）等について学びます。

【講義のねらい】

通常の学級における教育実践に関して、心理学の立場からどのような支援が可能かということについて考えていただこうと思います。

【到達目標】

学校心理学（school psychology）の特徴や機能について理解すること及び学級集団に関するアセスメント方法について理解することを目標とします。

【授業計画】

1　　オリエンテーション：教育心理学と学校心理学
2～3　学校心理学（school psychology）について
4～5　学級集団の特徴
6～8　学級集団を理解するための方法
9～12　学級集団に関する実践的研究
13～14　応用行動分析の立場からの学級経営
15　　まとめとテスト

【成績評価方法・基準】

授業への出席状況、課題（中間で課すレポート等）への取り組み、最終テストの成績等を総合的に判断して評価します。

【テキスト・参考書】

テキストは使用しません。毎回、資料を配付し、それを用いて講義を進めます。参考書等は適時紹介します。

教育心理学演習Ⅱ（後期）（２単位）　　松　村　茂　治

【講義概要】

この授業では、教育心理学領域の実証的な論文（実験的論文、実践報告等）の講読を通し、我が国の教育現場に生じている種々の問題について理解するとともに、各自の論文執筆に資するような勉強を進めていただこうと思います。心理学論文

の書き方について基礎的な学習をした後、まずは教育心理学研究、LD 研究、カウンセリング研究等の和文雑誌の中から、次いで、School Psychology Review、Best Practices in School Psychology、Learning Disabilities Research and Practices 等の英語論文の中から論文を選び、レポーターを決め発表していただきます。最後には、各自の研究テーマに即した論文を選びレポートをしていただきます。

【講義のねらい】

教育心理学領域の論文の講読を通して、この領域の研究の在り方（テーマや研究方法）について理解を進めるとともに、自身の論文執筆に資するような学習を進めていただこうと思います。

【到達目標】

教育心理学領域の論文の読み方、書き方について習熟すること、自分自身の論文執筆のためのテーマの設定のための情報収集をすることそして当該テーマにフィットした研究方法について基本的なスキルを習得すること等が目標です。

【授業計画】

1　　オリエンテーション
2 ～ 3　心理学論文の書き方について
4 ～ 7　和文の論文講読：学級集団、学級崩壊、学習障害、不登校等に関する論文
8 ～11　英文の論文講読：School Psychology に関する論文
12～15　各自のテーマに即した論文講読
＊論文講読という形式は変わりませんが、受講生の人数によって、計画の変更はあり得ます。

【成績評価方法・基準】

授業への出席状況、参加の具合、レポートへの取り組み、最終テスト等を総合的に判断して評価します。

【テキスト・参考書】

当初、論文はこちらで用意するが、各自のテーマに即した論文を選択することも可能です。

社会心理学研究Ⅰ（前期）（2 単位）　　繁　桝　江　里

【講義題目】

身近な関係における対人コミュニケーションと心理

【講義概要】

家族や友人など身近な人間関係において生じる対人コミュニケーションとそれに関わる心理について、最新の英語論文を講読し、その理論的背景や研究手法を学ぶとともに、研究の問題点について批判的に考察します。

【講義のねらい】

最新の研究の理解に加え、英語論文を要約するスキル、先行研究を批判するスキル、発表するスキルを習得することを目指します。

【到達目標】

当該分野の最新の研究動向、研究法、問題点の理解

【授業計画】

各回の発表担当者が英語論文を要約したレジュメを元に発表し、議論担当者が議論すべき点を提示します。それを踏まえ、受講者全員で議論を行います。

【成績評価方法・基準】

発表内容および通常の議論への参加程度で評価します。

【テキスト・参考書】

初回授業時に紹介する予定です。

社会心理学研究Ⅱ（後期）（2 単位）　　繁　桝　江　里

【講義題目】

産業組織心理学における対人コミュニケーション

【講義概要】

消費行動や職場など、産業組織心理学が扱う場面で生じる対人コミュニケーションとそれに関わる心理について、最新の英語論文を講読し、その理論的背景や研究手法を学ぶとともに、研究の問題点について批判的に考察します。

【講義のねらい】

最新の研究の理解に加え、英語論文を要約するスキル、先行研究を批判するスキル、発表するスキルを習得することを目指します。

【到達目標】
当該分野の最新の研究動向、研究法、問題点の理解
【授業計画】
各回の発表担当者が英語論文を要約したレジュメを元に発表し、議論担当者が議論すべき点を提示します。それを踏まえ、受講者全員で議論を行います。
【成績評価方法・基準】
発表内容および通常の議論への参加程度で評価します。
【テキスト・参考書】
初回授業時に紹介する予定です。

応用社会心理学演習Ⅰ（前期）（2単位）　萩　原　　滋

【講義題目】
マス・コミュニケーションの社会心理学（概論）
【講義概要】
日本におけるテレビ放送の歴史や視聴者の動向、メディア特性などについて概観した後、テレビの暴力描写の影響や現実の社会認識に及ぼすメディア情報の影響力を中心にメディア研究の分野における主要な理論や最近の社会心理学的研究の成果を取り上げる予定。
【講義のねらい】
マスメディアの中で、広く社会に浸透して最も大衆的メディアとなっているテレビの社会的影響力について理論と実証の両面からの理解を深めることを目的とする。
【到達目標】
日常的に接しているテレビや新聞などのマスメディアに対する関心が以前よりも深まれば幸いである。
【授業計画】
1回　　ガイダンス
2－4回　メディア効果論の紹介
5回　　テレビのメディア特性とテレビ放送小史
6回　　テレビの社会的影響概観
7－9回　テレビ暴力研究―理論と実証
10－12回　メディア情報と社会認識
【成績評価方法・基準】
発表や議論への貢献度などに基づいて評価する。
【テキスト・参考書】
萩原滋編著（2001）『変容するメディアとニュース報道―テレビニュースの社会心理学』丸善
NHK 放送文化研究所（2008）『現代社会とメディア・家族・世代』新曜社
田崎篤郎・児島和人編著（2003）マス・コミュニケーション効果研究の展開　［改訂新版］

応用社会心理学演習Ⅱ（後期）（2単位）　萩　原　　滋

【講義題目】
マス・コミュニケーションの社会心理学（メディア情報と外国認識）
【講義概要】
テレビにおける外国関連報道、CM やドラマ、バラエティ番組などにおける外国・外国人イメージの表象と視聴者の外国認識との関連に焦点を合わせて、メディア効果に関する社会心理学的研究を取り上げる。
【講義のねらい】
授業担当者が行っている一連の研究を主たる素材として、そこでの研究成果を通じてメディア情報の社会的影響力についての理解を深める。
【到達目標】
社会心理学とメディア研究の接合領域への接近の仕方を習得する。
【授業計画】
1回　　ガイダンス
2回　　日本のテレビにおける外国制作番組の放送史

3－4回　バラエティ番組『ここがヘンだよ日本人』を素材とした研究
5－6回　国際的スポーツイベント（ワールドカップ、オリンピックなど）を素材とした研究
7－9回　テレビニュースの外国関連報道の分析
10－11回　テレビＣＭの中の外国文化
12回　総括

【成績評価方法・基準】

発表や議論への貢献度などに基づいて評価する。

【テキスト・参考書】

萩原滋・国広陽子編（2004）『テレビと外国イメージ―メディア・ステレオタイピング研究』勁草書房
萩原滋編著（2007）『テレビニュースの世界像―外国関連報道が構築するリアリティ』勁草書房
岩渕功一（2007）『文化の対話力―ソフト・パワーとブランド・ナショナリズムを超えて』日本経済新聞社
土佐昌樹・青柳寛編（2005）『越境するポピュラー文化と〈想像のアジア〉』めこん

臨床心理学関連行政論特論Ⅰ（夏休み集中：後期集中扱い）（2単位）　脇　野　幸太郎

【講義題目】

臨床心理の実践（処遇）に関わる法制度の基本的理解

【講義概要】

臨床心理の現場（行政機関、医療機関、学校その他）における実際の処遇は、いずれも何らかの法制度に基づいて行われている。例えば、精神障害者に関する「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」はいうまでもないが、児童に関わる「児童福祉法」や「児童虐待の防止に関する法律」、非行少年に関わる「少年法」、「児童福祉法」、家庭裁判所調査官に関わる「裁判所法」、「家事審判法」、学校教育に関わる「学校教育法」など、数え上げれば枚挙に暇がない。これらについての理解を抜きにして臨床心理の実践はあり得ない。

本講義は、このような問題認識のもと、上記をはじめとする臨床心理の実践に関わるさまざまな法制度について検討し、その基本的理解を得ることを目的とする。なお、法律学の予備知識は必要としない。

なお、本講義の名称は「臨床心理学関連行政論特論Ⅰ」であるが、近代国家では「法治行政」の原則のもと、すべての行政は法に基づいて行われている。その意味でも、行政の実行にあたっての根拠となる法制度や、その根元にある「行政法」の基本的な考え方を理解しておく必要がある。本講義が法制度の理解を目的とするのはこのような考え方による（講師が法律学、なかんずく社会保障や社会福祉に関する法および行政法を専攻としているというより実際的な理由もあるが）。

【講義のねらい】

上記のとおり、臨床福祉の実践に関わるさまざまな法制度につき、その基本的理解を得ることである。ただし、単に知識を得るだけではなく、それぞれの法制度が設けられている目的や基本的理念といった法の基本的な考え方や、それぞれが抱える問題点などについて理解することに重点を置きたい。

【到達目標】

上記の「ねらい」の達成を図りつつ、その根本にある「法的なものの考え方（リーガル・マインド）」を身につけていただければ万々歳である。

【授業計画】

本講義は集中講義であるので、1日に複数コマの講義を行うことになる。そのため、1日につき1つのテーマを設定し、それについて集中的に検討する方式を考えている。具体的には、講師が事前に候補となるテーマを提示し、受講者の希望や意見を踏まえて授業計画を策定することとしたい。講義は、各受講者が割り当てられたテーマについて調査、報告し、それに対して講師が適宜説明をつけ加え、それに基づいて全員で論議する、という流れで行うことを考えている。また、講義のテーマよっては、それを専門とする研究者や、現場で活動しておられる方をゲストスピーカーとしてお招きすることも考えている。

本講義は、このように事前に授業計画を策定し、日程やテーマの割り振りなどについて決定しておく必要があるので、夏休み集中講義期間（9月）前の適当な日（5月か6月ころ）に、一度受講希望者に集合していただき、上記の点について相談する機会（説明会）を設ける予定である。その日程等については、改めて事務を通じて告知するので、受講希望者はその際は必ず出席されるようお願いしたい。

【成績評価方法・基準】

出席や報告、発言など、授業への参加状況を考慮して評価する。受講者は、自身が担当するテーマについてはもちろん、その他のテーマについても予習し、授業時は積極的に発言するなど、授業への積極的な参加が求められる。

【テキスト・参考書】

特に指定しない。参考となる文献については、事前の説明会の際や授業時に適宜紹介する。

【その他】

本講義は、後期集中の「臨床心理学関連行政論特論Ⅱ」とセットであるので、受講希望者は原則として両方を受講のこと。

臨床心理学関連行政論特論Ⅱ（後期集中）（2単位）　脇　野　幸太郎

【講義題目】

臨床心理の実践（処遇）に関わる法制度の具体的理解

【講義概要】

特論Ⅰにおける理解を踏まえ、臨床心理の実践に関わる法制度の社会での具体的な動態を考察する。

【講義のねらい】

「臨床心理学関連行政論特論Ⅰ」における各種法制度の基本的理解を踏まえ、それが現在の社会において具体的にどのように適用、運用され、そこにどのような問題点が生じているのかを、現場での臨床心理の実践例、裁判例などを通じて具体的に理解する。

【到達目標】

どのような法制度がどのような場面で適用されるのか、自ら考え、生じている問題の解決に結び付けられるようにする。また、現行の法制度だけでは問題解決に不十分である場合、それは今後どのようにあるべきか、自ら考える姿勢を身に着ける。

【授業計画】

受講者各自にテーマを選定してもらい、それについて報告してもらうゼミ形式を予定している。その他、ゲストスピーカーをお招きしてお話をうかがったり、関連施設を見学することも考えている。具体的な講義予定、テーマの選定等については、「臨床心理学関連行政論特論Ⅰ」の講義の状況をみて、受講者と相談のうえ決定することとしたい。

【成績評価方法・基準】

報告やそれに対する発言等、授業への参加状況を総合的に判断して評価する。

【テキスト・参考書】

特に指定しない。

【その他】

本講義は、「臨床心理学関連行政論特論Ⅰ」（夏休み集中）とセットであるので、原則として両方を受講のこと。特に本講義のみの受講は原則として認めない。

精神医学演習Ⅰ（前期）（2単位）　宮　川　香　織

【講義題目】

精神医学を覗いてみるⅠ

【講義概要】

心理学と精神医学は同じような用語を用い近しい関係にある学問でありながら、用いられようが違い、めざすものも違う。心理学から普段眺めているものを精神医学の方向から眺めてみて両者の相違を今一度確認してみる。

【講義のねらい】

将来、心理士として医療の近くで仕事をするときに精神科医の考え方、仕事内容、薬物療法や入院療法の成り立ちや効果を知り、異業種間での連携作業がスムーズに行えるようにする。

【到達目標】

①精神医学の歴史 ②各精神疾患の詳細 ③精神科臨床の実際 ④精神科医の行う精神療法と心理士の行う心理療法との違いなどについて理解を深める ⑤また、精神病の患者から見た世界がどのようなものか想像してみる

【授業計画】

①心とは？ ②精神科の病気とは？ ③精神科と社会 ④～⑥うつ病(1)～(3) ⑦～⑨統合失調症(1)～(3) ⑩精神疾患であるということの意味（本人・家族・社会）⑪芸術療法と表現病理 ⑫精神科医をどう使うか？精神科医に何ができるか？ ⑬精神医学と心理学

【成績評価方法・基準】

評価方法：レポート

基準：自分で考え、自分の言葉で精神医学の分野の課題に答えを出していく（ただし精神科医としてではなく）

【テキスト・参考書】

精神科治療の覚書（からだの科学選書） 中井久夫　日本評論社

精神科・治療と看護のエッセンス　市橋秀夫　星和書店
精神医学ハンドブック　山下格　日本評論社

精神医学演習Ⅱ（後期）（2単位）　宮川香織

【講義題目】
精神医学を覗いてみるⅡ

【講義概要】
心理学と精神医学の相違を知った後、精神科臨床特有の出来事や介入、心理士―精神科医の連携とより有効な心理療法の有り様、精神病者の世界観、患者家族の心理などについて考える。

【講義のねらい】
より具体的個別的に精神疾患を抱える人に起こっていることを見ていき、臨床に於ける心理的援助、医師との情報伝達などについて検討してみる。

【到達目標】
医療現場で心理学を生かす方法を身につけ、心理学から医療現場へクライエントを移す折りの、「時と場合」についての知識を身につける。

【授業計画】
①精神科の内と外②うつ的なもの③統合失調症ではない幻覚④初期統合失調症とアスペルガー症候群後子度子どもの患者⑥死の臨床⑦家族を扱う⑧精神科の取扱説明書⑨聞きとみたてのコツについて⑩精神科臨床と人格障害⑪失敗診療から学ぶ⑫精神医学を巡る不思議なこと

【成績評価方法・基準】
評価方法：レポート
基準：自分で考え、自分の言葉で精神医学の分野の課題に答えを出していく（ただし精神科医としてではなく）

【テキスト・参考書】
精神科治療の覚書（からだの科学選書）　中井久夫　日本評論社
精神科・治療と看護のエッセンス　市橋秀夫　星和書店
精神医学ハンドブック　山下格　日本評論社

老年心理学演習Ⅰ（前期）（2単位）　岡村陽子

【講義概要】
65歳以上のいわゆる高齢者が全人口の2割近くを占めるようになった現在では、高齢者の心理特徴について学ぶことは必須といえる。高齢者の問題は、認知症などの問題が大きく取り上げられ、病、孤独、死など暗いイメージでとらえられることも多い。しかし、高齢者と呼ばれることに抵抗を感じ、年齢を重ねることでますます輝きを増す人も数多く、生涯発達という観念から老年期の心理をとらえ直す動きも高まってきている。講義では、老年期の心理について概観した後、老年心理学のトピックについて取り上げ、各自の発表とそれについての討論という形式ですすめたい。後半には、老年期の心理評価に使用される各種心理検査を紹介したうえで、実習を行い、レポートを作成する。

【講義のねらい】
老年期の心理について幅広い知見を身につけ、実際に心理として対応していける力をつける

【到達目標】
老年期のパーソナリティ、発達課題、ライフイベント、疾患の特徴、対応方法について理解し、老年期の心理評価に使用される各種心理検査を実施できるようになる

【授業計画】
1　　老年心理学概説
2～7　老年心理の各トピックにそった発表・討論
8～13　老年期の心理評価

【成績評価方法・基準】
出席状況と授業内のレポート、発表などの平常点で行います。

【テキスト・参考書】
・稲谷ふみ枝・宮原英種　2003『高齢者理解の臨床心理学』ナカニシヤ出版
・下仲順子・中里克治・一番ヶ瀬康子　2004『高齢者心理学』建帛社
・大塚俊男・本間昭　監修『高齢者のための知的機能検査の手引』ワールドプランニング

・原寛美　監修　2005『高次脳機能障害ポケットマニュアル』医歯薬出版株式会社

障害者（児）心理学演習Ⅰ（前期）（2単位）　緒　方　登士雄

【講義題目】

発達障害児・者の発達支援に向けた心理学的アプローチ

【講義概要】

知的障害や自閉症、脳性まひなどの障害を抱えた人の理解と支援に関する心理学的知識を深める。また、このような障害をもつ人たちの生活の実際を知るために教育や福祉、労働等の関連領域の具体的資料も用いて幅広く検討したい。

【講義のねらい】

発達障害者の理解と支援のための新たな心理学的知見を得るとともに関連する領域への関心を深める。

【到達目標】

テーマに関連する資料の収集・分析を行ない検討できるようになる。

【授業計画】

授業参加者の準備したレジュメに基づく発表と討論を中心に行なう。

1．　授業のガイダンス
2．　参加者の問題意識の確認と発表テーマの決定
3～　授業参加者による発表と討論
4．　（最終回）授業のまとめ

【成績評価方法・基準】

授業への参加姿勢（出席回数、発言内容など）、レポートの内容による評価

【テキスト・参考書】

特に指定しない。必要に応じて適宜紹介する。

【その他】

授業参加者には、それぞれ自らの疑問・関心（テーマ）をもって授業に臨んでほしいと思います。

神経心理学特論Ⅰ（前期）（2単位）　中　野　光　子

【講義題目】

臨床神経心理学

【講義概要】

臨床心理学を学ぶ者が知っていなければならない脳に関する基礎的な知識、および脳損傷により生じる症状について自験例を中心に紹介する。学部で同様の内容の講義をしており重なるが、より詳しく講義する。

【講義のねらい】

脳に関する基礎的な知識を得ること。

【到達目標】

脳に興味関心を持ち、心理臨床活動において医学的知識が必要なこと、医療との連携が必要なことを理解すること。

【授業計画】

1．神経心理学序論
2．神経心理学の歴史
3．脳についての基礎的な知識
4．左半球損傷
5．右半球損傷
6．切断脳の研究の紹介

【成績評価方法・基準】

出席率、受講態度、試験成績を総合して評価する。

【テキスト】

中野光子著「高次脳機能障害診断法」山王出版

神経心理学特論Ⅱ（後期）（2単位）　中　野　光　子

【講義題目】

高次脳機能障害診断法

【講義概要】
前期につづき高次脳機能障害について学び、その診断法を講義する。
【到達のねらい】
高次脳機能障害の診断技術の重要性を理解させる。
【到達目標】
高次脳機能障害とその診断法に関する知識を得ること。
【授業計画】
1．記憶障害
2．認知症
3．精神遅滞
4．高次脳機能障害者をめぐる社会的環境
5．高次脳機能障害の診断
6．心理検査と神経心理学的検査
【成績評価方法・基準】
出席率、受講態度、試験の成績を総合して評価する。
【テキスト・参考書】
中野光子著：「高次脳機能障害診断法」山王出版

心身医学Ⅰ（後期）（2単位）　濱　田　庸　子

【講義題目】
心身医学Ⅰ
【講義概要】
初めに心身医学の基礎となる心身相関についての理論を学び、主な診断、治療法、および、代表的な心身症の疾患を学ぶ。各自が課題を選択し、最後にプレゼンを行う。
【講義のねらい】
こころと身体のつながりを理解し、人間を生物・心理・社会的にとらえる視点を持てるようになることを目標とする。
【到達目標】
心理臨床において、クライエントの理解に必要な知識を身につける。
【授業計画】
第1回　オリエンテーション、心身医学とは、心身医学の歴史
第2回　こころと身体、自律神経系
第3回　失感情症、からだ言葉、ストレス理論　発表課題の選択
第4回　心身症の診断
第5回　心身症の治療、バイオフィードバック、自律訓練法
第6回　心身症各論　呼吸器系　気管支喘息
第7回　呼吸器系　過換気症候群
第8回　循環器系　高血圧
第9回　循環器系　虚血性心疾　心臓突然死（致死性不整脈）
第10回　消化器系　ストレス潰瘍、過敏性腸症候群
第11回　摂食障害
第12回　悪性腫瘍、臨死患者
第13回　コンサルテーション・リエゾン
第14回　課題の発表
第15回　講義のまとめ
【成績評価方法・基準】
出席（30%）、課題の発表（70%）の総合評価による
【テキスト・参考書】
『心身医学』　久住眞理監修　（紀伊國屋書店）
その他、講義資料を適宜配布する

精神薬理学Ⅰ（前期）（2単位）　　桝屋二郎

【講義題目】

「脳とこころ」と「こころのくすり」

【講義概要】

現代の精神医療において欠かすことのできなくなった治療法である精神科薬物療法の基礎を学ぶと共に、脳科学・生物学的精神医学の立場から人の心を捉えていく視点も学んでいく。

【講義のねらい】

心理臨床と精神科医療は、対象とするクライエントや疾患がかなり重複しているため、混同されがちであるが、用いる手法や治療目標が実は異なっている面が大きい。そして、精神医学的視点を欠いた心理臨床や、心理学的視点を欠いた精神科医療は偏りや誤りを生じやすいことも知られている。我が国における心理臨床では、精神科を併診しているケースを治療していくことが多く、それらのケースのクライエントは往々にして精神科薬物療法を受けている。したがって心理臨床を正しく実践する際には、精神医学や薬物療法も含めた精神科臨床の知識は必須と言えよう。

本講義では心理臨床を実践する際に必須と思われる精神科薬物療法の知識を講義する。また、心理学的視点と同時に、生物学的視点からも人の心を捉えていく重要性を学ぶため、脳科学や生物学的精神医学の知見にも触れていく。

【到達目標】

・クライエントが受けている薬物療法の概要（種類、作用と副作用、薬理機序）を理解できる。

・クライエントの心理的、社会的な病態だけでなく、生物学的な病態生理にも目を向けることができる。

【授業計画】

神経生理の基礎からスタートし、精神薬理・精神科薬物療法を基礎と臨床の両面から講義する。それらと平行して精神症状と精神疾患の生物学的な理解と病態生理を学んでいく。細かい講義内容は学生の皆さんの意見を取り入れながら決めていきたい。

【成績評価方法・基準】

上記した到達目標に沿った内容でレポートを課す予定である。

【テキスト・参考書】

特に定めない。必要に応じて配布資料・VTR・パワーポイントを使用していく。

【その他】

単なる講義だけでなく、活発なディスカッションを行いたい。そのためにも質問や問題提起を積極的に行ってほしい。

心理療法演習Ⅰ（前期）（2単位）　　髙橋道子

【講義題目】

心理療法に関する文献研究

【講義概要】

心理療法の基本に関する文献の講読と討論及びフォーカシング実習

【講義のねらい】

様々な心理療法の文献講読を積み重ねることで、自分が行う心理療法を客観的に見直す観点を持ち続ける力をつけることを主眼とします。

また実習として取り上げる「フォーカシング」は来談者中心療法の流れを汲むシカゴ大学のジェンドリン博士が1960年代に開発した技法です。この方法で＜自分の内的体験へのかかわりかた＞を身につけることは、治療者としての資質をより一層高めることも出来ますし、文献考察をただ知識としてだけではなく、より深い理解へと導く体験となると考えられます。

【授業計画】

心理療法の基本的文献を扱います。

【成績評価方法・基準】

各自のレポート内容、及び討議・発表等により総合的に評価します。

【テキスト・参考書】

土居健郎　1989『方法としての面接』医学書院

成田善弘　2007『精神療法の第一歩』（増補）金剛出版

下坂幸三　1998『心理療法の常識』金剛出版　　その他

心理療法演習Ⅱ（後期）（２単位）　髙　橋　道　子

【講義題目】

心理療法に関する文献研究

【講義概要】

病態・治療目標に適した心理療法についての文献講読及び討論

【講義のねらい】

後期はより実践的な心理療法の文献を扱い、心理療法についての考察を深めることを主眼とします。

【到達目標】

文献研究を通して、心理療法の文献・症例研究を知識としてだけでなく、実際の心理療法場面を彷彿とさせることが出来るように読みこなすこと。

【授業計画】

心理療法についてより実践的な文献を扱います。

【成績評価方法・基準】

各自のレポート内容、及び発表・討論等により総合的に評価します。

【テキスト・参考書】

広瀬徹也　2004『精神療法の実践的学習』星和書店
下坂幸三　2007『アノレクシア・ネルヴォーザー論考』みすず書房
松木邦裕　2007『抑うつの精神分析的アプローチ』金剛出版
村瀬嘉代子　1995『子どもと大人の心の架け橋』金剛出版　その他

学校臨床心理学演習Ⅰ（前期）（２単位）　岩　田　淳　子

【講義題目】

学校臨床心理学の実際―スクールカウンセラーの相談援助活動―

【講義概要】

学校臨床心理学は、学校に在籍するすべての児童・生徒一人一人の発達援助を目的とし、教育上の諸問題について、本人またはその親、教師などのもつ課題や悩み・困難の解決を援助することとともに、学校コミュニティへの援助をも目指すものである。

本演習では、学校臨床心理学の特徴を理解し、そのうえで、児童・生徒の心理発達的特徴をふまえ、生じやすい心理的不健康と問題に対する、スクールカウンセラーとしてのアプローチを検討する。具体的には、学術誌論文講読と、事例検討、ロールプレイなどの演習課題を行う。

【講義のねらい】

学校臨床心理学の特徴を、①児童・生徒への個別的相談活動、②保護者、教員へのコンサルテーション、③学内外の人的・物理的資源との連携・協働、④危機介入、の視点から理解する。スクールカウンセリングで扱われることの多い、不登校、いじめ、非行、発達障害、その他の精神医学的問題について、アセスメントと援助方針の立て方、介入の方法を検討する。

【到達目標】

個別臨床と学校臨床の差異を理解し、学校という場において心理的相談活動を行う実践力を養うこと、そして、現場での臨床活動と、実践をまとめ考察し新たな発想を生成するための研究活動を行き来する視座の基礎を養うことが到達目標である。

【授業計画】

１回目のオリエンテーションにおいて、受講者の関心の所在により詳細は決定するが、２～３回は学校臨床心理学の特徴についての講義と質疑応答、以降は、学校コミュニティ、あるいは個別事例を対象とした学術論文等文献講読とディスカッション、事例検討とロールプレイを行う。

【成績評価方法・基準】

演習内容にかかわるレポートと、実習・発表・貢献度・参加態度から総合的に評価する。

【教科書・参考書】

随時、ハンドアウトを配布。
「臨床心理学研究」等の学術論文の他、必要に応じて紹介する。

学校臨床心理学演習Ⅱ（後期）（２単位）　岩　田　淳　子

【講義題目】

学生相談研究

【講義概要】

学生相談とは、大学キャンパスにある学生相談機関（名称は大学により異なる）で、入学から卒業までの限定された期間に行われる、大学生に対する心理的相談活動の総称である。

本演習では、学生相談の意味と大学教育との関係、学生理解の視点と学生相談の実際を検討する。具体的には、学術誌論文講読と、事例検討、ロールプレイなどの演習課題を行う。

【講義のねらい】

学生相談の特徴を、①学生への個別的相談活動、②大学コミュニティにおける連携・協働、③学生相談と教育、④危機介入、の視点から理解する。学生相談で扱われる相談内容（進路修学・心理性格・対人関係・学生生活・心身健康等）について、アセスメントと援助方針の立て方、介入の方法を検討する。

【到達目標】

個別臨床と学生相談臨床の差異を理解し、大学という高等教育機関において心理的相談活動を行う実践力を養うこと、そして、現場での臨床活動と、実践をまとめ考察し新たな発想を生成するための研究活動を行き来する視座の基礎を養うことが到達目標である。

【授業計画】

１回目のオリエンテーションにおいて、受講者の関心の所在により詳細は決定するが、２～３回は学生相談臨床の概要と特徴についての講義と質疑応答、以降は、個別事例あるいは大学コミュニティを対象とした学術論文等文献講読と討議、事例検討（不登校とひきこもり、発達障害、自殺をめぐる問題、ハラスメントと事件性のある問題等）とロールプレイを行う。

【成績評価方法・基準】

演習内容にかかわるレポートと、実習・発表・貢献度・参加態度から総合的に評価する。

【教科書・参考書】

随時、資料を配布。「学生相談研究」等の学術論文の他、必要に応じて紹介する。

・大学における学生相談体制の充実方策について―「総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」― 2007。独立行政法人日本学生支援機構。
・福田真也。2007。大学教職員のための大学生のこころのケア・ガイドブック―精神科と学生相談からの15章― 金剛出版。
・学生相談学会編。2010。『学生相談ハンドブック』学苑社（２月刊行予定）

臨床心理地域援助特論Ⅰ（夏休み集中：後期集中扱い）（２単位）　箕　口　雅　博

【講義題目】

臨床心理地域援助（コミュニティ援助）の理論と実際―コミュニティ心理学の視座から

【講義概要】

本講義では、心理臨床活動の第三の柱である臨床心理学的地域援助（コミュニティ援助）の考え方と方法をコミュニティ心理学の視座から追究する。具体的には、コミュニティ心理学の定義、歴史、理論的背景、基本的発想、介入・援助の方法について概論的な解説をおこない、臨床心理地域援助（コミュニティ援助）の実践に必要な発想と方法を習得することを目的とする。

【講義のねらい】

心理臨床活動の第三の柱である臨床心理学的地域援助（コミュニティ援助）の考え方と方法をコミュニティ心理学の視座から追究する。

【到達目標】

臨床心理地域援助（コミュニティ援助）とその基盤となるコミュニティ心理学の基本的考え方と援助方法についての包括的理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

概ね下記のテーマに沿って講義を進めるが、パワーポイント・VTRなどを用い、グループによる討議・発表、ロールプレイなどを取り入れた多面的な授業を展開していく予定である。

１回　　現代社会と心の問題～社会（コミュニティ）臨床心理学の視座
２回　　コミュニティ心理学の定義～コミュニティ心理学とは：定義・理念・独自性
３回　　コミュニティ心理学の歴史・理論的背景～誕生の歴史／理論・モデル
４回　　コミュニティ心理学の基本発想(1)～伝統的心理臨床モデルとコミュニティ・モデル

5回　　コミュニティ心理学の基本発想(2)～サービス提供のあり方／地域臨床の活動方針
6回　　コミュニティ心理学の実践領域
7回　　介入・援助の方法(1)～予防的介入の発想と方法
8～9回　介入・援助の方法(2)～危機理論と危機介入：その1
10～11回　介入・援助の方法(3)～コンサルテーション
11～12回　介入・援助の方法(4)～サポートネットワーキング／非専門家・他職種との連携・協働
13～14回　さまざまな領域におけるコミュニティ心理学的アプローチの実際
15回　　まとめ

【成績評価方法・基準】

授業への参加度（50%）および複数の課題レポート（50%）によって総合的に評価する。知識のみならず、考える力も評価する。

【テキスト・参考書】

＜テキスト＞

箕口雅博編『臨床心理地域援助特論』（放送大学教育振興協会）2007

＜参考書＞

◆日本コミュニティ心理学会 編『コミュニティ心理学ハンドブック』（東京大学出版会）2007
◆植村勝彦・高畠克子・箕口雅博ほか編『よくわかるコミュニティ心理学』（ミネルヴァ書房）2006
◆山本和郎編『臨床心理学的地域援助の展開』（培風館）2001
◆溝口・箕口編『医療・看護・福祉のための臨床心理学』（培風館）2001
◆Scileppi, J.A., Teed, E.L. & Torres, R.D. 2000 Community Psychology: A common sense approach to mental health. Printice-Hall, Inc.（植村勝彦訳『コミュニティ心理学』ミネルヴァ書房、2005）
◆Orford, J.（1992）Community Psychology: Theory and Practice. John Willey & Sons, Chichester（山本和郎 監訳：コミュニティ心理学―理論と実践―、ミネルヴァ書房、1997）
◆Duffy, K.G. & Wong, F.Y.（1996）Community Psychology. Allyn & Bacon（植村勝彦監訳 コミュニティ心理学 ―社会問題への理解と援助―、ナカニシヤ出版、1999）
★コミュニティ心理学研究1巻1号～12巻2号
※他の文献・レジュメ資料等は講義の中で紹介または配布する。

【その他】

※日本コミュニティ心理学会HPは次の通り。
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jscp2/
※意欲的で行動力のある皆さんの受講を期待する。

臨床心理地域援助特論Ⅱ（後期：隔週2時限連続）（2単位）　　箕　口　雅　博

【講義題目】

臨床心理地域援助（コミュニティ援助）の理論と実際―実践面の展開を中心に

【講義概要】

本講義では、個人の抱える適応上の問題・悩みについて、その個人の心理・病理からではなく、個人をとりまく環境（対人関係・社会ネットワーク）との相互作用という視点からの理解とそれにもとづく心理援助の方法について、体験的理解をはかることを課題とする。後期集中では、前期の授業をふまえつつ、主として、危機介入、コンサルテーション、社会的支援とネットワークづくりに焦点を当て、その理論と実際を、さまざまな領域における実践研究およびフィールド調査を通して体験的に習得することを課題とする。

【講義のねらい】

心理臨床活動の第三の柱である臨床心理学的地域援助（コミュニティ援助）の考え方と方法をコミュニティ心理学の視座から追究する。

【到達目標】

臨床心理地域援助（コミュニティ援助）の考え方と介入・援助方法についての体験的理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

概ね下記のテーマに沿って講義を進めるが、グループによる討議・発表、ゲスト講師による実践現場の紹介などを取り入れた多面的な授業を展開していく予定である。

1回　　現代社会と心の問題～社会の要請に応える多様な心理援助サービスの必要性

2回　　コミュニティモデルにもとづく心理援助モデルの発想と方法
3回　　コミュニティで活動する心理臨床家の活動方針
4～5回　介入・援助の方法(1)～予防的介入モデル：集団・組織・システムへの介入
6～7回　介入・援助の方法(2)～危機介入とコンサルテーション
8～9回　介入・援助の方法(3)～サポートネットワーキングと連携・協働
10～14回　さまざまな領域におけるコミュニティ・アプローチの実際：医療保健・教育・福祉・産業・多文化・地域など（精神科リエゾン／地域精神保健／虐待予防／暴力・ハラスメント／難民支援）
15回　　まとめ

【成績評価方法・基準】

授業への参加度（50%）および複数の課題レポート（50%）によって総合的に評価する。知識のみならず、考える力も評価する。

【テキスト・参考書】

＜テキスト＞

箕口雅博編『臨床心理地域援助特論』（放送大学教育振興協会）2007

＜参考書＞

◆日本コミュニティ心理学会 編『コミュニティ心理学ハンドブック』（東京大学出版会）2007
◆植村勝彦・高畠克子・箕口雅博ほか編『よくわかるコミュニティ心理学』（ミネルヴァ書房）2006
◆山本和郎編『臨床心理学的地域援助の展開』（培風館）2001
◆溝口・箕口編『医療・看護・福祉のための臨床心理学』（培風館）2001
◆Scileppi, J.A., Teed, E.L. & Torres, R.D. 2000 Community Psychology: A common sense approach to mental health. Printice-Hall, Inc.（植村勝彦訳『コミュニティ心理学』ミネルヴァ書房、2005）
◆Orford, J.（1992）Community Psychology: Theory and Practice. John Willey & Sons, Chichester（山本和郎 監訳：コミュニティ心理学―理論と実践―、ミネルヴァ書房、1997）
◆Duffy, K.G. & Wong, F.Y.（1996）Community Psychology. Allyn & Bacon（植村勝彦監訳 コミュニティ心理学 ―社会問題への理解と援助―、ナカニシヤ出版、1999）
★コミュニティ心理学研究1巻1号～12巻2号
※他の文献・レジュメ資料等は講義の中で紹介または配布する。

【その他】

※日本コミュニティ心理学会HPは次の通り。
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jscp2/
※意欲的で行動力のある皆さんの受講を期待する。

臨床心理実務倫理演習Ⅰ（後期）（2単位）　　金　沢　吉　展

【講義題目】

臨床心理実務倫理演習Ⅰ

【講義概要】

体験学習と講義を組み合わせた形式で行う。倫理的問題を含んだ複数の架空ケースを講師が提示し、学生は小グループによるディスカッションや全体でのディスカッションを行う。講師は学生の発表に対してコメントを行うとともに、関連する職業倫理原則や職業倫理判断プロセス、および、職業倫理に関する調査研究の結果等について説明する。

また学生は、臨床心理学の実践に関係する現実的な注意点について理解を得るために、関連するいくつかの法律の概要ならびに関連諸機関の役割等について、小グループで発表を行う。

このような方法により、学生が実際の状況に接した際に、適切な判断ならびに行動を行うことができるよう、問題発見型の学習機会を提供したい。

【講義のねらい】

抽象的な倫理概念ではなく、具体的な状況に即した職業倫理的判断について理解を深めることをねらいとする。

【到達目標】

実際の臨床・研究場面において、より適切な判断を行うことができるよう、職業倫理的・法的側面について基礎的な理解を得る。

【授業計画】

以下を予定しているが、受講生の人数ならびに授業の進行具合により、適宜調整しながら行う。

第１回　授業の紹介、授業への導入、架空の状況（１）
第２回　架空の状況（１）
第３回　架空の状況（１）
第４回　架空の状況（２）
第５回　架空の状況（２）
第６回　架空の状況（２）
第７回　架空の状況（３）
第８回　架空の状況（３）
第９回　架空の状況（３）
第10回　関連する法律について、学生による発表
第11回　関連する法律について、学生による発表
第12回　関連する法律について、学生による発表
第13回　職業倫理の現状（調査研究から）
第14回　倫理規程・倫理綱領について
第15回　まとめ、期末試験

なお、関連する法律についての発表内容は以下の通りである。発表については、受講者数が確定した後、授業時に改めて案内する（精神保健福祉法、児童虐待防止法、児童福祉法、少年法、少年院法、発達障害者支援法、労働安全衛生法、個人情報保護法、DV 禁止法、犯罪被害者支援法のうちいくつかの法律をとりあげる予定）。

① それぞれの法律の制定に至る経緯ならびに審議の経過の概略、および、その法律が生まれた時代・社会的背景・社会的要請
② それぞれの法律の条文の概要、および、心理臨床家にとって重要と思われる条文および関連する主要諸機関の機能・役割についての解説
③ 関係する主要な判決・判例の紹介

【成績評価方法・基準】

授業への出席状況および体験学習への参加の程度（40%）、授業時の発表内容（20%）、ならびに学期末試験（40%）により評価する。やむを得ず遅刻あるいは欠席をする場合は、できるだけ事前に講師に申し出ること。それ以外の遅刻・欠席は減点の対象となるので注意してほしい。

【テキスト・参考書】

金沢吉展（著）「臨床心理学の倫理をまなぶ」（東京大学出版会、2006年）
参考文献については授業時に紹介する。

【その他】

受講生は、指示されたテキストや文献について、自分で十分に学習を行っておくこと。また、小集団による体験学習を多く用いるため、中途で履修を放棄したりするのではなく、積極的に授業に参加することが求められる。

実験心理学演習Ⅰ（前期）（２単位）　北　村　文　昭

【講義概要】

実験心理学は、経験と科学が合体した経験科学と称される現代科学のもっとも典型的な方法論に基づいています。実際、帰納的に導き出されたこの世界に妥当する経験が私たちの知の体系全体に大きな貢献をなしています。心理学も実験的な方法論に従って、現代心理学として地歩を築いて来た経緯があります。

しかし、実験心理学の評価は、必ずしも肯定的なものではありません。心理検査でよく問題になる信頼性、妥当性が実験心理学全体についても問われるべきでしょう。「実験心理学演習」では、テキストを講読しながら心理学の実験に関するより信頼性と妥当性の高いあり方を探求します。広い視野を前提にした実験によって明らかになる領域の地平を目指します。

【講義のねらい】

まず学部レベルでの心理学の実験領域に関する基礎を確認します。そこに基づいてより柔軟で生産的な方法論と内容、生態学的妥当性の高い研究を探求します。

【到達目標】

実験的方法論の理解と実践する力を涵養します。

【授業計画】

テキストを読み、基礎的な理解を確認した後、必要に応じてさらにテキストを読み進んだり、実際に実験計画を立てます。

【成績評価方法・基準】
平常の実験研究に対する貢献を評価します。
【テキスト・参考書】
Elmes, D.G. et al.: Research Methods in Psychology（*with Info Trac*）, *6th Edition. Brooks/Cole*

実験心理学演習Ⅱ（後期）（2単位）　北　村　文　昭

【講義概要】
実験心理学は、経験と科学が合体した経験科学と称される現代科学のもっとも典型的な方法論に基づいています。実際、帰納的に導き出されたこの世界に妥当する経験が私たちの知の体系全体に大きな貢献をなしています。心理学も実験的な方法論に従って、現代心理学として地歩を築いて来た経緯があります。
しかし、実験心理学の評価は、必ずしも肯定的なものではありません。心理検査でよく問題になる信頼性、妥当性が実験心理学全体についても問われるべきでしょう。「実験心理学演習」では、テキストを講読しながら心理学の実験に関するより信頼性と妥当性の高いあり方を探求します。広い視野を前提にした実験によって明らかになる領域の地平を目指します。
【講義のねらい】
実験心理学演習Ⅰに引き続き、心理学の実験領域に関する基礎を確認した後、生態学的妥当性の高い研究について考察し、実験へと導入して行きます。
【到達目標】
実験的方法論の理解と、自立して研究を推進する力を涵養します。
【授業計画】
実験心理学演習Ⅰの展開として実験計画を推敲し、実際に資料収集をし、可能であればその成果を論文にまとめます。
【成績評価方法・基準】
平常の実験研究に対する貢献を評価します。
【テキスト・参考書】
Elmes, D.G. et al.: Research Methods in Psychology（*with Info Trac*）, *6th Edition. Brooks/Cole*

人間情報科学演習Ⅰ（前期）（2単位）　薬師神　玲　子

【講義題目】
認知心理学入門
【講義概要】
認知心理学の概説書と研究論文の輪読を通して、各領域での基礎的な知見および最新の研究動向を概観する。
【講義のねらい】
認知心理学の知見を通して、人間の情報処理システムについての理解を深め、研究視野を広げることをねらいとする。
【到達目標】
認知心理学の各領域における基本的な知見および研究方法を理解することを目標とする。
【授業計画】
1.　イントロダクション
2-3.　知覚と注意
4-6.　記憶
7-9.　情動と意思決定
10-11.　問題解決と推論
12-13.　運動計画および制御
14-15.　言語
【成績評価方法・基準】
授業中の発表およびレポートに基づいて評価を行う。
【テキスト・参考書】
初回授業に提示する。

人間情報科学演習Ⅱ（後期）（2単位）　薬師神　玲　子

【講義題目】
信号検出理論入門

【講義概要】
認知心理学、特に知覚や記憶研究の領域の基本的な測定法である信号検出理論について概説する。
【講義のねらい】
信号検出理論に基づいた測定法の学習を通して、情報処理システムとしての人間の理解を深める。
【到達目標】
信号検出理論に基づいた測定法を研究に応用できる知識、技術の獲得を目標とする。
【授業計画】
1.　イントロダクション
2-5.　古典的信号検出理論：様々な実験パラダイムによる測定
6-10.　多次元信号検出理論とカテゴリー化
11-13.　信号検出理論の展開
14-15.　プロジェクト発表
なお、5回目、10回目、13回目では、学生による、信号検出理論を用いた最新の研究論文の紹介を行う。
また、授業後半では、各自、信号検出理論に基づく実験等の小プロジェクトを実施し、研究発表を行う。
【成績評価方法・基準】
授業中の論文紹介およびプロジェクト報告（発表、レポート）に基づいて評価を行う。
【テキスト・参考書】
授業初回に提示する。
【その他】
事前の数学的知識は必要としない。学生の理解に合わせて、基本的事項から順次進める予定である。

情動発達論演習Ⅰ（前期）（2単位）　坂　上　裕　子

【講義題目】
進化論的観点から捉えた発達Ⅰ
【講義概要】
発達心理学の中で扱われてきた伝統的なトピック（遺伝と環境、認知と学習、社会的認知、家族関係、仲間関係、遊びなど）について、進化論的観点からの論考に触れることを通して、発達という現象についての理解を深める。
【講義のねらい】
進化発達心理学の基本的な考え方を理解することで、人間の発達について多角的な視点から捉えうるようになることをねらいとする。
【到達目標】
子どもの発達に関する基本的な知識を確認、習得することに加え、様々な知見について批判的かつ建設的に討論する力を身につけることを目標とする。
【授業計画】
初回の授業時にガイダンスを行う。
2回め以降の授業では、担当者による講義と受講者による文献の発表を織り交ぜながら、全体で討論を行う。
【成績評価方法・基準】
出席状況、授業での発表（過不足のない分かりやすいレジュメが作成されているか／聞き手が理解しやすい形でプレゼンテーションが行われているかを評価の基準とする）、討論への参加（討論への参加度／討論の展開への貢献度を評価の基準とする）によって、総合的に評価を行う予定である。
【テキスト・参考書】
Bjorklund, D. & Pellegrini, A.D.（2002）, *The origins of human nature. Evolutionary developmental psychology*. APA.（ビョークランド・ペリグリーニ（著）、無藤隆（監訳）（2008）、進化発達心理学．ヒトの本性の起源．新曜社.）
【その他】
授業の進め方については、受講者の既存の学習内容や理解度などに応じて、多少の変更を行うことがある。

情動発達論演習Ⅱ（後期）（2単位）　坂　上　裕　子

【講義題目】
進化論的観点から捉えた発達Ⅱ
【講義概要】

発達心理学の中で扱われてきた伝統的なトピックの中でも、子育て・子育ちという現象を取り上げ、生物としての「ヒト」の子育てや子育ちについて、進化論的観点から論考する。

【講義のねらい】

演習Ⅰに引き続き、進化発達心理学の基本的な考え方を理解することで、人間の発達について多角的な視点から捉えうるようになることをねらいとする。

【到達目標】

演習Ⅰに引き続き、子どもの発達に関する基本的な知識を確認、習得することに加え、様々な知見について批判的かつ建設的に討論する力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

初回の授業時にガイダンスを行う。

２回め以降の授業では、担当者による講義と受講者による文献の発表を織り交ぜながら、全体で討論を行う。

【成績評価方法・基準】

出席状況、授業での発表（過不足のない分かりやすいレジュメが作成されているか／聞き手が理解しやすい形でプレゼンテーションが行われているかを評価の基準とする）、討論への参加（討論への参加度／討論の展開への貢献度を評価の基準とする）によって、総合的に評価を行う予定である。

【テキスト・参考書】

ハーディ（著）、塩原通緒（訳）(2005)、マザー・ネイチャー（上）・(下)、早川書房。

【その他】

授業の進め方については、受講者の既存の学習内容や理解度などに応じて、多少の変更を行うことがある。

産業心理学研究Ⅰ（前期）（２単位）　　境　　忠　宏

【講義題目】

産業心理学の発展動向

【講義概要】

産業心理学の発展を、ワークモチベーション・リーダーシップ・キャリアデベロップメント・マーケティングの四つのテーマから解説する。

【講義のねらい】

実践的応用を目的とする産業心理学研究の発展を、経営における人間観の変遷を踏まえて理解し、最近の経営における人間観とそれに対応した現代の産業心理学の研究課題を展望する。

【到達目標】

産業心理学研究の発展を実践的応用への課題解決という視点から理解することで、近年の経済・経営状況のもとで産業心理学が取り組むべき研究課題とそれらへの取り組み状況を把握する。

【授業計画】

次の五つのパートで授業を進める。ただし、学習の進行度により計画を変更することもある。

パートⅠ　ガイダンス

１．講義ガイダンス
　授業の進め方を解説するとともに資料を配布する。

２．経営管理の動向
　科学的管理法以降の経営管理の展開とそこでの人間観を解説する。

３．産業心理学の発展
　それぞれの経営管理のもとでの産業心理学研究を展望する。

パートⅡ　ワークモチベーション研究

４．人間欲求の構造
　欲求階層理論を中心にワークモチベーションの内容理論を解説する。

５．動機づけの過程
　期待価値理論を中心にワークモチベーションの過程理論を解説する。

６．ワークモチベーション研究の課題と方向
　ワークモチベーション研究のこれからの方向について検討する。

パートⅢ　リーダーシップ研究

７．グループプロセス

集団の環境適応過程におけるリーダーの役割を概観する。

8．リーダーシップスタイル

リーダーシップ研究の発展動向を解説する。

9．リーダーシップ研究の課題と方向

リーダーシップ研究のこれからの方向について検討する。

パートⅣ　キャリア研究

10．キャリアの概念

外的キャリアから内的キャリアへのキャリア概念の変遷を展望する。

11．キャリアの形成と発達

計画的偶発性理論を中心に自律的キャリア形成の過程を解説する。

12．キャリア研究の課題と方向

キャリア研究のこれからの方向について検討する。

パートⅤ　マーケティング研究

13．購買意思決定

情報処理モデルによる消費者の意思決定過程を解説する。

14．ブランディング

態度形成モデルによるブランドイメージ形成過程を解説する。

15．マーケティング研究の課題と方向

マーケティング研究のこれからの方向について検討する。

【成績評価方法・基準】

パートⅡの6・パートⅢの9・パートⅣの12・パートⅤの15における産業心理学のこれからの研究課題と展開方向の検討における各自の発表内容に基づき成績を評価する。

【テキスト・参考書】

テキストはとくに用いず必要な資料を配布する。

参考書としては「佐々木土師二編　産業心理学への招待　有斐閣　2100円」を推薦する。

産業心理学研究Ⅱ（後期）（2単位）　　境　　忠　宏

【講義題目】

キャリア研究の課題と方向

【講義概要】

前期のテーマの中からキャリア研究を取り上げ、近年とくに重視されている自律的キャリア形成のプロセスとその支援方法について解説する。

【講義のねらい】

経営の人間観や人材開発目標の変遷に対応したキャリア概念そのものの発展動向を理解し、自律的人材育成という昨今の人材開発目標のもとでのキャリア研究の動向と成果を展望する。

【到達目標】

自律的人材育成のための企業の人材開発の課題と方向ならびにその実践事例を学ぶとともに、企業だけでなく行政や教育など社会全体での連携方向を把握し、そのためのキャリア形成支援方法を理解する。

【授業計画】

次の五つのパートで授業を進める。ただし、学習の進行度により計画を変更することもある。

パートⅠ　ガイダンス

1．講義ガイダンス

授業の進め方を解説するとともに資料を配布する。

2．企業のキャリア開発の動向と事例

最近の企業のキャリア開発の動向を事例を踏まえて解説する。

3．キャリア研究の発展

キャリア概念の変遷と最近のキャリア研究を展望する。

パートⅡ　人間・環境適合研究

4．パーソンズの特性因子理論

職業選択のための職業適性理論を解説する。

5．ホランドの人間・環境適合理論
職業適応のための職業興味理論を解説する。
6．人間・環境適合研究の課題と方向
人間・環境適合研究のこれからの方向について検討する。
パートⅢ　生涯発達研究
7．スーパーの生涯発達理論
社会的役割の生涯発達モデルを解説する。
8．シェインの自己概念理論
職業的自己概念のキャリアアンカーモデルを解説する。
9．生涯発達研究の課題と方向
生涯発達研究のこれからの方向について検討する。
パートⅣ　自律的キャリア形成研究
10．クランボルツの計画的偶発性理論
偶発的機会の意図的な発見と活用を重視するキャリア形成を解説する。
11．サビカスのキャリア適応理論
キャリア形成の成熟と統合的適応を重視するキャリア形成を解説する。
12．自律的キャリア形成研究の課題と方向
自律的キャリア形成研究のこれからの方向について検討する。
パートⅤ　国際化時代のキャリア研究
13．キャリアの比較文化的研究
社会的・文化的背景とキャリア形成との関係について解説する。
14．国際的キャリア形成研究
国境を越えたキャリア形成の要件と課題について解説する。
15．国際化時代のキャリア研究の課題と方向
国際化時代のキャリア研究のこれからの方向について検討する。

【成績評価方法・基準】

パートⅡの6・パートⅢの9・パートⅣの12・パートⅤの15におけるキャリア研究のこれからの研究課題と展開方向の検討における各自の発表内容に基づき成績を評価する。

【テキスト・参考書】

テキストはとくに用いず必要な資料を配布する。
参考書としては「宮城まり子監修　キャリアサポート　駿河台出版　1700円」を推薦する。

研究指導Ⅰ（前期）（2単位）・研究指導Ⅱ（後期）（2単位）　遠　藤　健　治

【研究指導概要】

心理学に関して、学部教育の基盤の上に更に専門の学術を研究し、精深な学識と研究能力を養い、心理学分野における研究能力、あるいはその学識に加えて高度の専門性を求められる職業を担うための卓越した能力の修得を目的とし、特に社会心理学および心理統計学の観点から、修士論文の作成指導を行う。

【研究指導のねらい】

修士論文作成のために、理論を構築する力、データを解析する力の増強を目指す。

【到達目標】

①卒業論文をまとめ直し、学会もしくは研究誌に発表する　②先行研究を渉猟し、修士論文の理論的枠組みを構築する
③予備的研究（調査や実験等）を行い、2年次での実証研究の素地を作成する。

【研究指導計画】

毎週定時に研究室にて、①卒業論文の再構成と校閲、投稿準備、②先行研究の発表と検討、③予備的研究の計画立案と結果処理報告・検討を行う。

【成績評価方法・基準】

学会・学会誌への発表状況、先行研究の検討状況、修士論文の研究計画立案状況、予備的研究の遂行状況を総合して評価をつける。

研究指導Ⅰ（前期）（２単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】

学部で涵養した心理学の知識、実践技能を総合して自分自身の研究について概観し具体的な方法論を探求します。それぞれの学生の興味の核心を明確化し、それについてのもっとも望ましく、かつ限られた時間と環境で実現できる方法を選び出して行きます。さらに、今後の研究の発展性も考慮しながら、研究の総括として論文作成を支援します。

【研究指導のねらい】

研究者としての第一歩としてできる限り可能性に開かれた研究を目指します。

【到達目標】

修士論文の見通しを明確化することがまず重要です。

【研究指導計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと並行して論文執筆を指導します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【参考文献】

適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅱ（後期）（２単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】

研究指導Ⅰの成果を継承しながら、研究資料を収集することを支援し、論文全体の論理的整合性と精緻化を進めます。

【研究指導のねらい】

研究者としての第一歩としてできる限り可能性に開かれた研究を目指します。

【到達目標】

修士論文の内容を具体化した構想を練ります。

【研究指導計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと並行して論文執筆を指導します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【参考文献】

適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅰ（前期）（２単位）・研究指導Ⅱ（後期）（２単位）　平　山　栄　治

【研究指導概要】

臨床心理学、精神分析学、および人間性心理学の分野で修士論文を執筆しようとする院生の論文指導を行う。院生自身が研究したいテーマを見つけだすことを重視している。特に、心理療法、カウンセリング、グループアプローチ、エンカウンターグループ、アイデンティティー、人格、適応、病理、自己実現、文化といったテーマについての助言指導を行う。

【研究指導のねらい】

臨床心理学の中から各自の研究テーマを見つけ出し、修士論文作成について助言指導する。

【到達目標】

臨床心理学に関する修士論文を作成する。

【研究指導計画】

１．各自の研究テーマの探索、文献検索
２．研究テーマの決定と方法論の検討
３．データの収集と分析、考察
４．論文執筆

【成績評価方法・基準】

研究会への出席、討論への積極的参加、文献レビューレポートの提出と発表、研究計画の発表と討論、データ分析と考察などを総合的に評価する。

研究指導Ⅰ（前期）（2単位）・研究指導Ⅱ（後期）（2単位）　丸　山　千　秋

【研究指導概要】

学部教育の基盤の上に、さらに専門の学術を研究します。とくに、臨床心理学および障害児心理学の観点から、独自性のある深い学識と精緻な研究能力を養い、修士論文のための研究計画を作成できるように指導を行います。

【研究指導のねらい】

先行研究を批判的に読み解けるようになること、その中で、自分の研究の独自性を出し、研究計画を立てることができるようになることをねらいとします。

【到達目標】

修士論文作成のための文献研究および研究計画作成を目標とします。

【研究指導計画】

毎週1度、研究指導を行います。

【成績評価方法・基準】

修士論文作成のための研究計画の評価、および、日頃の研究への取り組み、出席を総合的に評価します。

【参考文献】

研究指導の中で指示します。

研究指導Ⅰ（前期）（2単位）・研究指導Ⅱ（後期）（2単位）　山　根　律　子

【研究指導概要】

以下の活動について指導する。

1．各自の研究テーマに沿って、定期的に研究会で発表を行ない、修士論文作成に向けての研究を進める。
2．学内外の発達臨床の場での実習に参加し、スーパーバイズを受ける。
3．学部生の研究について、アドバイスを行なう。
4．学会での発表、学術雑誌への投稿論文の作成を行なう。

【研究指導のねらい】

質の高い修士論文にの作成をねらいとするとともに、発達臨床にかかわる者としての資質の向上をはかる。

【到達目標】

修士論文の完成、臨床心理士・臨床発達心理士資格を取得するために求められる知識、技能、人間性の獲得。

【研究指導計画】

1．月2回の研究会および臨床チーム実習への参加
2．前・後期各数回の学部ゼミへの参加および学部生指導
3．学外臨床実習に対するスーパーバイズ
4．作成論文に関する指導

【成績評価方法・基準】

研究内容、作成論文、臨床実習等を総合的に評価する。

【参考文献】

特に定めない。

研究指導Ⅰ（前期）（2単位）・研究指導Ⅱ（後期）（2単位）　小　俣　和　義

【研究指導概要】

心理学に関して、学部教育の基盤の上にさらに専門の学術を研究し、深い学識と研究能力を養う。心理学分野における高度の専門性や卓越した能力を習得するために、研究計画の立て方や進め方についてさまざまな観点から指導を行う。これらの専門的な技能を磨きながら、臨床心理学や心理査定学の観点から修士論文の作成に向けて具体的な助言を行う。自身の研究のみならず、他者の研究に関して幅広い観点から吟味し、議論できる能力の向上も目指す。

【研究指導のねらい】

心理学に関する学術研究を行っていくための専門的な素養を修得することをおもなねらいとする。自らの目的に沿って、先行研究を精査し、主体的に研究計画を立て、かつ正確に研究を遂行できる能力を養う。オリジナリティを見つける能力や、自身独自の見解を他の研究者に対して明確に伝えるプレゼンテーション技能の向上も重要と考えている。

【到達目標】

研究者および指導者としての資質を高め、専門技能を有した職業人として社会に高く貢献できる人材になる。

【研究指導計画】

研究論文作成に向けて、文献講読、データ収集や分析の方法、考察の展開などについて、さまざまな観点から議論をする。

【成績評価方法・基準】

研究内容、出席および発表、課題の達成度をもとに評価する。

【参考文献】

随時紹介する。

研究指導Ⅰ（前期）（2単位）・研究指導Ⅱ（後期）（2単位）　坂　上　裕　子

【研究指導概要】

生涯発達心理学の観点から、修士論文の作成指導を行う。

【研究指導のねらい】

修士論文の作成に向け、論文作成の諸ステップ（先行研究の概観、リサーチクエスチョンの設定、調査計画の立案、調査の実施、データの分析等）において必要とされる基本的な技能を修得することをねらいとする。

【到達目標】

修士論文の作成を通して、専門分野においてオリジナリティのある研究を遂行する能力や、研究者としての倫理を身につけることを目標とする。

【研究指導計画】

基本的には、各受講者が修士論文の進行の度合いに応じて発表を行い、それに対して、受講者全員で討論を行うこととする。学期末には、各自の半期の成果を発表する報告会を行う。

【成績評価方法・基準】

出席および発表内容、研究内容などを総合的に評価する。

【参考文献】

特に定めない。

研究指導Ⅰ（前期）（2単位）・研究指導Ⅱ（後期）（2単位）　繁　桝　江　里

【研究指導概要】

心理学に関して、学部教育の基盤の上に更に専門の学術を研究し、精深な学識と研究能力を養い、心理学分野における研究能力あるいはその学識に加えて高度の専門性を求められる職業を担うための卓越した能力の習得を目的とし、特に社会心理学、産業組織心理学、および対人コミュニケーションのテーマで修士論文を作成するための指導を行います。

【研究指導のねらい】

独自の研究テーマを設定し、研究計画を立案・実施し、データ解析の結果を考察する、という修士論文作成のプロセスを経ることで、研究者の基礎能力の習得を目指します。

【到達目標】

研究指導Ⅰ・Ⅱでは、研究テーマに関わる先行研究のレビュー、研究課題と研究手法に関する議論、予備的な研究の実施までを到達目標とします。

【研究指導計画】

毎週1度、各研究段階の報告および議論を行います。

【成績評価方法・基準】

研究内容、および、議論への参加程度を総合的に評価します。

【参考文献】

研究テーマに応じて指示します。

研究指導Ⅰ（前期）（2単位）・研究指導Ⅱ（後期）（2単位）　薬師神　玲　子

【研究指導概要】

心理学に関して、学部教育の基盤の上に更に専門の学術を研究し、精深な学識と研究能力を養い、心理学分野における研究能力、あるいはその学識に加えて高度の専門性を求められる職業を担うための卓越した能力の習得を目的とし、特に知覚心理学、認知心理学および人間情報科学の観点から、修士論文の中核となる研究の計画および実施指導を行う。

【研究指導のねらい】

修士論文の作成を通して、専門分野における研究能力および学識の向上をはかり、かつ、専門性の高い職業を担う為の論理的思考力、企画力、実行力を養う。

【到達目標】

知覚心理学、認知心理学または人間情報科学の分野における専門性の高い研究手法を習得し、これを用いた専門性の高い研究を行う。

【研究指導計画】

先行研究のレビューおよび研究手法の習得から報告書（論文）の作成まで、個別に指導を行う。

【成績評価方法・基準】

研究報告書に基づいて評価を行う。

【参考文献】

適宜、指示する。

研究指導Ⅲ（前期）（２単位）・研究指導Ⅳ（後期）（２単位）　遠　藤　健　治

【研究指導概要】

心理学に関して、研究指導Ⅰ・Ⅱの基盤の上に更に専門の学術を研究し、精深な学識と研究能力を養い、心理学分野における研究能力、あるいはその学識に加えて高度の専門性を求められる職業を担うための卓越した能力の修得を目的とし、特に社会心理学および心理統計学の観点から、修士論文の作成指導を行う。

【研究指導のねらい】

修士論文作成を通して高度の研究能力と態度の涵養を目指す。

【到達目標】

①修士論文の理論的枠組みを構築する、②実証的研究（調査や実験等）を行い、③修士論文を完成させる。

【研究指導計画】

毎週定時に研究室にて、①先行研究の発表と検討、②実験研究の計画立案と結果処理報告・検討、③修士論文の作成指導を行う。

【成績評価方法・基準】

学会・学会誌への発表状況、先行研究の検討状況、修士論文の研究計画立案状況、修士論文の到達度を総合して評価をつける。

研究指導Ⅲ（前期）（２単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】

学部および修士課程１年で涵養した心理学の知識、実践技能を総合して自分自身の研究について概観し具体的な方法論を探求します。それぞれの学生の興味の核心を明確化し、その興味を具体化できる方法論を導き出して、実践に移す作業を開始します。

【研究指導のねらい】

研究者としての第一歩としてできる限り可能性に開かれた研究を目指します。

【到達目標】

修士論文の見通しを実践に移行することが目標です。

【研究指導計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力しながら、論文を執筆の導入を支援します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【参考文献】

適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅳ（後期）（２単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】

研究指導Ⅰ～Ⅲの成果を継承しながら、得られた研究資料の整理、分析、さらに考察の構想などの推敲を支援します。

【研究指導のねらい】

修士論文で得られた成果と次の展開を論述し、現在の研究の位置づけの明確化を目指します。

【到達目標】

修士論文の完成を目標とします。

【研究指導計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと並行して論文に関する可能な限りの論点提示とその整理を指導し、論理的展開を検討します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【参考文献】

適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅲ（前期）（２単位）・研究指導Ⅳ（後期）（２単位）　　平　山　栄　治

【研究指導概要】

臨床心理学、精神分析学、および人間性心理学の分野で修士論文を執筆しようとする院生の論文指導を行う。院生自身が研究したいテーマを見つけだすことを重視している。特に、心理療法、カウンセリング、グループアプローチ、エンカウンターグループ、アイデンティティー、人格、適応、病理、自己実現、文化といったテーマについての助言指導を行う。

【研究指導のねらい】

臨床心理学の中から各自の研究テーマを見つけ出し、修士論文作成について助言指導する。

【到達目標】

臨床心理学に関する修士論文を作成する。

【研究指導計画】

１．各自の研究テーマの探索、文献検索
２．研究テーマの決定と方法論の検討
３．データの収集と分析、考察
４．論文執筆

【成績評価方法・基準】

研究会への出席、討論への積極的参加、文献レビューレポートの提出と発表、研究計画の発表と討論、データ分析と考察などを総合的に評価する。

研究指導Ⅲ（前期）（２単位）・研究指導Ⅳ（後期）（２単位）　　丸　山　千　秋

【研究指導概要】

研究指導ⅠおよびⅡの基盤の上に、さらに専門性を高め、とくに、臨床心理学および障害児心理学の観点から、独自性のある修士論文の作成について指導を行います。

【研究指導のねらい】

自分の研究の独自性を出し、研究計画に基づいて修士論文作成のための手順を踏んで、データ収集、データの処理、論述を組み立てることができるようになることをねらいとします。

【到達目標】

修士論文の作成および提出を目標とします。

【研究指導計画】

毎週１度、研究指導を行います。

【成績評価方法・基準】

修士論文の評価、および、日頃の研究への取り組み、出席を総合的に評価します。

【参考文献】

研究指導の中で指示します。

研究指導Ⅲ（前期）（２単位）・研究指導Ⅳ（後期）（２単位）　　山　根　律　子

【研究指導概要】

以下の活動について指導する。

１．各自の研究テーマに沿って、定期的に研究会で発表を行ない、修士論文作成に向けての研究を進める。
２．学内外の発達臨床の場での実習に参加し、スーパーバイズを受ける。
３．学部生の研究について、アドバイスを行なう。
４．学会での発表、学術雑誌への投稿論文の作成を行なう。

【研究指導のねらい】

質の高い修士論文の作成をねらいとするとともに、発達臨床にかかわる者としての資質の向上をはかる。

【到達目標】
修士論文の完成、臨床心理士・臨床発達心理士資格を取得するために求められる知識、技能、人間性の獲得。
【研究指導計画】
1．月２回の研究会および臨床チーム実習への参加
2．前・後期各数回の学部ゼミへの参加および学部生指導
3．学外臨床実習に対するスーパーバイズ
4．作成論文に関する指導
【成績評価方法・基準】
研究内容、作成論文、臨床実習等を総合的に評価する。
【参考文献】
特に定めない。

研究指導Ⅲ（前期）（２単位）・研究指導Ⅳ（後期）（２単位）　小　俣　和　義

【研究指導概要】
心理学に関して、研究指導Ⅰ・Ⅱの基盤の上にさらに専門の学術を研究し、深い学識と研究能力を養う。心理学分野における高度の専門性や卓越した能力を習得するために、研究計画の立て方や進め方についてさまざまな観点から指導を行う。これらの専門的な技能を磨きながら、臨床心理学や心理査定学の観点から修士論文の作成に向けて具体的な助言を行う。自身の研究のみならず、他者の研究に関して幅広い観点から吟味し、議論できる能力の向上も目指す。
【研究指導のねらい】
心理学に関する学術研究を行っていくための専門的な素養を修得することをおもなねらいとする。自らの目的に沿って、先行研究を精査し、主体的に研究計画を立て、かつ正確に研究を遂行できる能力を養う。オリジナリティを見つける能力や、自身独自の見解を他の研究者に対して明確に伝えるプレゼンテーション技能の向上も重要と考えている。さらには、現代社会に広く貢献できる資質と素養を身に付けることも目標とする。
【到達目標】
研究者、指導者および心理臨床の専門家としての資質を高め、専門技能を有した職業人として社会に高く貢献できる人材になる。
【研究指導計画】
研究論文作成に向けて、文献講読、データ収集や分析の方法、考察の展開などについて、さまざまな観点から議論をする。深く学問を考究する。
【成績評価方法・基準】
研究内容、出席状況および発表内容、課題の達成度をもとに評価する。授業での学習態度も重要な評価項目である。
【参考文献】
随時紹介する。

研究指導Ⅲ（前期）（２単位）・研究指導Ⅳ（後期）（２単位）　坂　上　裕　子

【研究指導概要】
生涯発達心理学の観点から、修士論文の作成指導を行う。
【研究指導のねらい】
修士論文の作成に向け、論文作成の諸ステップ（先行研究の概観、リサーチクエスチョンの設定、調査計画の立案、調査の実施、データの分析等）において必要とされる基本的な技能を修得し、修士論文を完成させることをねらいとする。
【到達目標】
修士論文の作成を通して、専門分野においてオリジナリティのある研究を遂行する能力や、研究者としての倫理を身につけることを目標とする。
【研究指導計画】
基本的には、各受講者が修士論文の進行の度合いに応じて発表を行い、それに対して、受講者全員で討論を行うこととする。学期末には、各自の半期の成果を発表する報告会を行う。
【成績評価方法・基準】
出席および発表内容、研究内容、修士論文の完成度などをもって総合的に評価する。
【参考文献】
特に定めない。

研究指導Ⅲ（前期）（２単位）・研究指導Ⅳ（後期）（２単位）　繁　桝　江　里

【研究指導概要】

心理学に関して、研究指導Ⅰ・Ⅱの基盤の上に更に専門の学術を研究し、精深な学識と研究能力を養い、心理学分野における研究能力あるいはその学識に加えて高度の専門性を求められる職業を担うための卓越した能力の習得を目的とし、特に社会心理学、産業組織心理学、および対人コミュニケーションのテーマで修士論文を作成するための指導を行います。

【研究指導のねらい】

独自の研究テーマを設定し、研究計画を立案・実施し、データ解析の結果を考察する、という修士論文作成のプロセスを経ることで、研究者の基礎能力の習得を目指します。

【到達目標】

研究指導Ⅲ・Ⅳでは、研究指導Ⅰ・Ⅱで検討した研究計画や予備的な研究の結果に基づき、研究を実施してデータを解析し、その結果および考察を修士論文にまとめることを到達目標とします。

【研究指導計画】

毎週１度、各研究段階の報告および議論を行います。

【成績評価方法・基準】

研究内容、および、議論への参加程度を総合的に評価します。

【参考文献】

研究テーマに応じて指示します。

研究指導Ⅲ（前期）（２単位）　薬師神　玲　子

【研究指導概要】

学部および修士課程１年で涵養した心理学の知識、実践技能を総合して自分自身の研究について概観し具体的な方法論を探究します。それぞれの学生の興味の核心を明確化し、その興味を具体化できる方法論を導き出して、実践に移す作業を開始します。

【研究指導のねらい】

研究者としての第一歩としてできる限り可能性に開かれた研究を目指します。

【到達目標】

修士論文の見通しを実践に移行することが目標です。

【授業計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力しながら、論文を執筆の導入を支援します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【テキスト・参考書】

適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅳ（後期）（２単位）　薬師神　玲　子

【研究指導概要】

研究指導Ⅰ～Ⅲの成果を継承しながら、得られた研究資料の整理、分析、さらに考察の構想などの推敲を支援します。

【研究指導のねらい】

修士論文で得られた成果と次の展開を論述し、現在の研究の位置づけの明確化を目指します。

【到達目標】

修士論文の完成を目標とします。

【授業計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと平行して論文に関する可能な限りの論点提示とその整理を指導し、論理的展開を検討します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【テキスト・参考書】

適宜、授業中に紹介します。

【心理学専攻（博士後期課程）講義内容】

研究指導Ⅴ（前期）（２単位）・研究指導Ⅵ（後期）（２単位）　遠　藤　健　治

【研究指導概要】

心理学に関して、博士前期課程における教育及び研究の基盤の上に更に一層高度の専門的学術を研究し、精深な学識と高度の研究能力を養い、今後の社会における指導的研究者又はその他の高度に専門的な業務に従事する人材となるべく、特に社会心理学及び心理統計学の観点から、博士論文の作成指導を行う。

【研究指導のねらい】

博士論文作成のために、理論構築力、データ解析力の更なる増強を目指すのに加え、英語によるプレゼンテーション力（文章、口頭の両者を含む）の伸張を目指す。

【到達目標】

①修士論文をまとめ直し、学会もしくは研究誌に発表する　②先行研究を渉猟し、博士論文の理論的枠組みを構築する　③予備的研究（調査や実験等）を行い、２・３年次での実証研究の素地を作成する。

【研究指導計画】

毎週定時に研究室にて、①修士論文の再構成と校閲、投稿準備、②先行研究の発表と検討、③予備的研究の計画立案と結果処理報告・検討を行う。

【成績評価方法・基準】

学会・学会誌への発表状況、先行研究の検討状況、博士論文の研究計画立案状況、予備的研究の遂行状況を総合して評価をつける。

研究指導Ⅴ（前期）（２単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】

修士論文の成果を一段と進め、より高い視点から心理学の特定の領域の探求を広く深く推進することを支援します。

【研究指導のねらい】

研究者としてさらに深い学識と高度な方法論を修得することを目指します。

【到達目標】

博士論文の輪郭を描き出すことを目標にします。

【研究指導計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと並行して論文執筆を指導します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【参考文献】

適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅵ（後期）（２単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】

研究指導Ⅴまでの成果を総括的に見直して、研究をまとめることを支援します。

【研究指導のねらい】

研究者として心理学の特定の領域における研究での論理的整合性に基づく論文構成を指導します。

【到達目標】

博士論文の構想を具体化します。

【研究指導計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと並行して論文執筆を指導します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【参考文献】

適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅴ（前期）（２単位）・研究指導Ⅵ（後期）（２単位）　　平　山　栄　治

【研究指導概要】

臨床心理学、精神分析学、および人間性心理学の分野で博士論文を執筆しようとする院生に論文指導を行う。院生自身が修士論文に基づいて、それをさらに展開させ、あるいは新たな研究テーマを展開させて博士論文を作成していく過程に助言指導を与える。特に、心理療法、カウンセリング、グループアプローチ、エンカウンターグループ、アイデンティティー、人格、適応、病理、自己実現、文化といったテーマについての助言指導を行う。

【研究指導のねらい】

臨床心理学の中から各自の研究テーマを見つけ出し、博士論文作成について助言指導する。

【到達目標】

臨床心理学に関する博士論文を作成する。

【研究指導計画】

１．各自の研究テーマの探索、文献検索
２．研究テーマの決定と方法論の検討
３．データの収集・分析・考察１
４．データの収集・分析・考察２
５．データの収集・分析・考察３
６．学会発表と論文投稿
７．論文執筆

【成績評価方法・基準】

研究会への出席、討論への積極的参加、文献レビューレポートの提出と発表、研究計画の発表と討論、データ分析と考察、学会発表、紀要・学会誌への論文の投稿などを総合的に評価する。

研究指導Ⅴ（前期）（２単位）・研究指導Ⅵ（後期）（２単位）　　丸　山　千　秋

【研究指導概要】

博士前期課程における教育および研究の基盤の上に、さらに一層高度の専門の学術を研究します。とくに、臨床心理学および障害児心理学の観点から、独自性のある深い学識と精緻な研究能力を養い、博士論文の作成について指導を行います。

【研究指導のねらい】

博士前期課程在籍時よりもさらに先行研究を批判的に読み解けるようになること、その中で、自分の研究の独自性を出し、研究計画を立ててデータを収集し、研究成果を学会で発表し、論文として学術雑誌に投稿できるようになることをねらいとします。

【到達目標】

研究成果を学会で発表し、論文として学術雑誌に投稿できるようになることを目標とします。

【研究指導計画】

毎週１度、研究指導を行います。

【成績評価方法・基準】

日頃の研究への取り組み、出席、学会発表、学術雑誌への投稿を総合的に評価します。

【参考文献】

研究指導の中で指示します。

研究指導Ⅴ（前期）（２単位）・研究指導Ⅵ（後期）（２単位）　　山　根　律　子

【研究指導概要】

以下の内容について指導する。

１．各自の研究テーマに沿って、定期的に研究会で発表を行ない、博士論文作成に向けての研究を進める。
２．学内外の発達臨床の場での実習に参加し、スーパーバイズを受ける。
３．学部生・博士前期課程院生の研究について、指導を行なう。
４．学会での発表を毎年行うとともに、学術雑誌への投稿論文を執筆する。

【研究指導のねらい】

質の高い博士論文の作成をねらいとするとともに、発達臨床にかかわる者としての資質の向上をはかる。同時に、研究者としての自覚を持ち、オリジナリティの高い研究を推進するに促る実力をつける。

【到達目標】

博士論文の完成、研究者としての活動を展開できるだけの自身の研究領域における実蹟を有し、将来的展望を持てること。

【研究指導計画】

1．月2回の研究会および臨床チーム実習への参加

2．前・後期各数回の学部ゼミへの参加および学部生指導

3．作成論文に関する指導

【成績評価方法・基準】

研究内容、作成論文、学会発表等を総合的に評価する。

【参考文献】

特に定めない。

研究指導Ⅶ（前期）（2単位）・研究指導Ⅷ（後期）（2単位）　遠　藤　健　治

【研究指導概要】

心理学に関して、研究指導Ⅴ・Ⅵの基盤の上に更に一層高度の専門的学術を研究し、精深な学識と高度の研究能力を養い、今後の社会における指導的研究者又はその他の高度に専門的な業務に従事する人材となるべく、特に社会心理学及び心理統計学の観点から、博士論文の作成指導を行う。

【研究指導のねらい】

博士論文作成のために、理論構築力、データ解析力の更なる増強を目指すのに加え、英語によるプレゼンテーション力（文章、口頭の両者を含む）の伸張を目指す。

【到達目標】

①先行研究を渉猟し、博士論文の理論的枠組みを構築する　②博士論文を構成する実証研究を行い、学会で結果を発表し、学術雑誌に投稿する。

【研究指導計画】

毎週定時に研究室にて、①先行研究の発表と検討、②博士論文用の実験研究の計画立案と結果処理報告・検討、③投稿論文の作成を行う。

【成績評価方法・基準】

学会・学会誌への発表状況、先行研究の検討状況、博士論文の研究計画立案状況、実験究の遂行状況を総合して評価をつける。

研究指導Ⅶ（前期）（2単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】

博士論文の構想を一段と進め、論文の主要部から文章化し、全体の整合性を確認しながら、執筆を支援します。

【研究指導のねらい】

研究者としてさらに深い学識と高度な方法論の洗練を目指します。

【到達目標】

博士論文の主要部をまとめることを目標にします。

【研究指導計画】

ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと並行して論文執筆を指導します。

【成績評価方法・基準】

論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。

【参考文献】

適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅷ（後期）（2単位）　北　村　文　昭

【研究指導概要】

現在までの研究成果を総括的に見直して、博士論文として研究をまとめることを支援します。

【研究指導のねらい】

研究者として心理学の特定の領域における研究を総括し最も適切な論文構成を指導します。

【到達目標】

博士論文の完成を目標にします。

【研究指導計画】
ゼミを中心として研究の議論を重ね、適宜実験室での実験やフィールド調査に協力します。それと並行して論文執筆を指導します。
【成績評価方法・基準】
論文の質と平常の研究への態度を総合的に評価します。
【参考文献】
適宜、授業中に紹介します。

研究指導Ⅶ（前期）（２単位）**・研究指導Ⅷ（後期）**（２単位）　　**平　山　栄　治**
【研究指導概要】
臨床心理学、精神分析学、および人間性心理学の分野で博士論文を執筆しようとする院生に論文指導を行う。院生自身が修士論文に基づいて、それをさらに展開させ、あるいは新たな研究テーマを展開させて博士論文を作成していく過程に助言指導を与える。特に、心理療法、カウンセリング、グループアプローチ、エンカウンターグループ、アイデンティティー、人格、適応、病理、自己実現、文化といったテーマについての助言指導を行う。
【研究指導のねらい】
臨床心理学の中から各自の研究テーマを見つけ出し、博士論文作成について助言指導する。
【到達目標】
臨床心理学に関する博士論文を作成する。
【研究指導計画】
１．各自の研究テーマの探索、文献検索
２．研究テーマの決定と方法論の検討
３．データの収集・分析・考察１
４．データの収集・分析・考察２
５．データの収集・分析・考察３
６．学会発表と論文投稿
７．論文執筆
【成績評価方法・基準】
研究会への出席、討論への積極的参加、文献レビューレポートの提出と発表、研究計画の発表と討論、データ分析と考察、学会発表、紀要・学会誌への論文の投稿などを総合的に評価する。

研究指導Ⅶ（前期）（２単位）**・研究指導Ⅷ（後期）**（２単位）　　**丸　山　千　秋**
【研究指導概要】
研究指導ⅤおよびⅥの基盤のうえに、さらに一層高度の専門の学術を研究します。とくに、臨床心理学および障害児心理学の観点から、独自性のある深い学識と精緻な研究能力を養い、博士論文の作成について指導を行います。
【研究指導のねらい】
研究指導ⅤおよびⅥの基盤のうえに、さらに先行研究を批判的に読み解けるようになること、その中で、自分の研究の独自性を出し、研究計画を立ててデータを収集し、研究成果を学会で発表し、論文として学術雑誌に投稿できるようになることをねらいとします。
【到達目標】
研究成果を学会で発表し、論文として学術雑誌に投稿できるようになることを目標とします。
【研究指導計画】
毎週１度、研究指導を行います。
【成績評価方法・基準】
日頃の研究への取り組み、出席、学会発表、学術雑誌への投稿を総合的に評価します。
【参考文献】
研究指導の中で指示します。

研究指導Ⅶ（前期）（２単位）**・研究指導Ⅷ（後期）**（２単位）　　**山　根　律　子**
【研究指導概要】
以下の内容について指導する。

1．各自の研究テーマに沿って、定期的に研究会で発表を行ない、博士論文作成に向けての研究を進める。
2．学内外の発達臨床の場での実習に参加し、スーパーバイズを受ける。
3．学部生・博士前期課程院生の研究について、指導を行なう。
4．学会での発表を毎年行うとともに、学術雑誌への投稿論文を執筆する。

【研究指導のねらい】

質の高い博士論文の作成をねらいとするとともに、発達臨床にかかわる者としての資質の向上をはかる。同時に、研究者としての自覚を持ち、オリジナリティの高い研究を推進するに促る実力をつける。

【到達目標】

博士論文の完成、研究者としての活動を展開できるだけの自身の研究領域における実績を有し、将来的展望を持てること。

【研究指導計画】

1．月 2 回の研究会および臨床チーム実習への参加
2．前・後期各数回の学部ゼミへの参加および学部生指導
3．作成論文に関する指導

【成績評価方法・基準】

研究内容、作成論文、学会発表等を総合的に評価する。

【参考文献】

特に定めない。